

令和4年第2回 邑南町民議会 会議録

1. 招集年月日 令和4年12月5日
 2. 招集の場所 邑南町役場 議場
 3. 開 会 令和4年12月5日(月) 午後1時33分
 散会 午後4時56分

4. 応招議員

| 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|--------|
| 1番 | 三浦 幹雄 | 2番 | 井上 英司 | 3番 | 原田 正毅 | 4番 | 井上 至 |
| 5番 | 日高 健吾 | 6番 | 石飛 正一 | 7番 | 亀山 陽叶 | 8番 | 種 宏樹 |
| 9番 | 日向真奈美 | 10番 | 辻 聡志 | 11番 | 佐々木敏影 | 12番 | 柘植 賢志 |
| 13番 | 森脇すえ子 | 14番 | 日高 正義 | 15番 | 小泉 篤 | 16番 | 尾崎 俊樹尾 |

5. 不応招議員 なし

6. 出席議員 10名

| 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 1番 | 三浦 幹雄 | 2番 | 井上 英司 | | | 4番 | 井上 至 |
| 5番 | 日高 健吾 | 6番 | 石飛 正一 | | | | |
| 9番 | 日向真奈美 | 10番 | 辻 聡志 | 11番 | 佐々木敏影 | 12番 | 柘植 賢志 |
| 13番 | 森脇すえ子 | | | | | | |

7. 欠席議員 6名

| 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 |
|-----|-------|-----|-------|----|------|-----|-------|
| 3番 | 原田 正毅 | 7番 | 亀山 陽叶 | 8番 | 種 宏樹 | 14番 | 日高 正義 |
| 15番 | 小泉 篤 | 16番 | 尾崎 俊樹 | | | | |

8. 地方自治法第121条第1項の規定により、説明のため会議に出席した者の職氏

| 職名 | 氏名 | 職名 | 氏名 | 職名 | 氏名 |
|----------|-------|---------|-------|--------|-------|
| 町長 | 石橋 良治 | 副町長 | 日高 輝和 | 総務課長 | 大賀 定 |
| 情報みらい創造課 | 柳川 修司 | 地域みらい課長 | 田村 哲 | 財務課長 | 三上 和彦 |
| 町民課長 | 河野 博美 | 福祉課長 | 小笠原誠治 | 産業支援課長 | 白須 寿 |
| 建設課長 | 上田 修 | 水道課長 | 沖野 弘輝 | 医療政策課 | 口羽 正彦 |
| 保健課長 | 坂本 晶子 | | | | |
| 羽須美支所長 | 上田 康典 | 瑞穂支所長 | 三浦 康孝 | | |
| 教育長 | 大橋 覚 | 学校教育課長 | 高瀬 満晃 | 生涯学習課長 | 三上 徹 |
| | | | | | |

9. 本会議に職務のため出席した者の氏名

議会事務局長 井上 義博 事務局調整監 植田 靖子

10. 町長提出議案の題目 別紙のとおり

11. 会議録署名議員の氏名

| 議席 | 氏名 | 議席 | 氏名 |
|----|------|----|-------|
| 4番 | 井上 至 | 5番 | 日高 健吾 |

12. 本日の会議の大要は別紙のとおりである。

令和4年第2回邑南町民議会 議事日程

令和4年12月5日（月）午後1時30分開会

開会、開議宣告

議事日程の報告

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

令和4年 第2回 邑南町民議会 会議録

【令和4年12月5日（月）】

—— 午後1時33分 開会 ——

~~~~~○~~~~~

（開会宣告）

●石橋議長（石橋純二） ただ今から、令和4年第2回邑南町民議会を開会いたします。

~~~~~○~~~~~

（開議宣告）

●石橋議長（石橋純二） これより、本日の会議を開きます。本日の議事日程は、あらかじめお手元に配布したとおりでございます。

~~~~~○~~~~~

（日程第1 会議録署名議員の指名）

●石橋議長（石橋純二） 日程第1、会議録署名議員の指名をいたします。井上至議員、日高健吾議員、お願いをいたします。

~~~~~○~~~~~

（日程第2 会期の決定）

●石橋議長（石橋純二） 日程第2、会期の決定を議題といたします。お諮りをいたします。本町民議会の会期は、本日12月5日の1日限りといたしたいと思っております。これに、ご異議はありませんか。

（「異議なし」の声あり）

●石橋議長（石橋純二） 異議なしと認めます。したがって本町民議会の会期は、本日12月5日の1日限りとすることに決定をいたしました。



(日程第3 一般質問)

●石橋議長（石橋純二） 日程第3、一般質問。一般質問は、通告順に行います。あらかじめ一般質問の順番を申し上げておきます。通告順位は、1番佐々木敏影議員、2番日高健吾議員、3番柘植賢志議員、4番石飛正一議員、5番井上至議員、6番三浦幹雄議員、以上6名でございます。

●石橋議長（石橋純二） それでは、通告順位第1号、佐々木敏影議員、登壇をお願いします。

(佐々木敏影議員登壇)

●佐々木議員（佐々木敏影） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、佐々木敏影議員。

●佐々木議員（佐々木敏影） 今回、発言の機会をいただき、ありがとうございます。昨年、邑南の高原に移住してきました佐々木と申します。デザインが生業です。近々ですと、江の川鐵道さんに三江線の鉄印帳とスタンプをらせていただきまして、スタンプも各駅設置して、鉄印帳も絶賛発売中ですので、ぜひ皆さん、買ってください。今日お願いは二つなんですけども、移住を増やすためのお試し住宅を設置。もう一つが、多目的スペースをつくるの二つです。では、日々、邑南で生活し、自身として困っていることは、ないかもしれませんが通告書には書いたんですけども、僕、今12月で仕事がなくなってしまって、正月お餅を買うお金もないんで、どなたか仕事をください。で、それでも近年、年齢状況においては、危うさを感じている方も私も含めて、少なからずいるはずですよ。何が問題なのか。人口減少、少子高齢、公的設備、施設、何を優先するべきなのか。もともと住んでいた東京から邑南に来た時、東京ほど問題は深刻ではなく、ある意味、邑南は無傷のように感じました。邑南はインフラが整っている。あとは、町全体が外せないハブとなれば、盤石なはずなんです。人が必ず通る要所、そのハブとなるところがきもなんですけど、その話はまた別の機会にということで。今回は、人口減少、少子高齢に言及して、お話していきたいと思えます。遠方から来て、すみません、ページが飛んじゃって。東京は人が余ってます。

どこの土地でもそうかもしれませんが、一旦ドロップアウトしてしまうと、なかなか職に就けず、路頭に迷って仕事のレベルを落とすしかないのが現状です。実力があるのに、活躍できない方を邑南に呼ぶことはできないものでしょうか。そのために、お試し住宅を是非とも設置していただきたいです。遠方から来て、何の取っかかりもなく、空き家を探すのは難しく、右も左もわからないで探しているわけですから、今のサポート状況では足りないんです。それは、みらい課の人が頑張っていないって意味じゃないですよ。で、何卒お試し住宅をよろしくお願いします。以前、横洲竜という、移住コーディネーターがいましたが、プロの移住案内者が必要だとも思います。彼は、暴れ馬な面もありますけども、誰かが手綱を持ってやれば、名馬になるというふうにも思います。彼に一度チャンスを与えていただきたいです。で、お試し住宅なかなか難しいということであれば、私のほうで、できればやりたいという気持ちもありますんで、どなたか、空き家を譲っていただけたら、幸いです。よろしくお願いします。一つ目の質問はそこなんですけども、座った方がいいですか。

●石橋議長（石橋純二） はい。

●佐々木議員（佐々木敏影） はい、ありがとうございます。

○田村地域みらい課長（田村哲） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、田村地域みらい課長。

○田村地域みらい課長（田村哲） ご質問いただきましたお試し住宅についてでございますけども、邑南町ではご指摘いただいたとおり、お試し住宅は設置をしておりません。理由としましては、住まいとりわけ賃貸のアパートや空家が不足しているということがございます。ここ数年せつかく邑南町に移住したいと相談をいただいたとしても、なかなかご希望にあった住まいが案内できずに、移住に至らないケースが出ております。そのため町としましては、まず、邑南町に移住したいと決めて、ご相談くださる方への住まいの整備、とりわけニーズが高い賃貸住宅の整備を優先して取り組んでいるところでございます。なお、一定期間、邑南町に滞在してみたいとお問い合わせいただいた際には、民泊やゲストハウスあるいはシェアハウスをご案内しております。このことは、邑南町の人と出会っていただくことに繋がり、邑南町での暮らしをより深く知っていただくことに繋がるものと考えてのことでございます。個人でお試し住宅を整備される場合には、邑南町民間賃貸住宅建設支援事業の改築のほう

の事業がございます。これ改築の補助金でございます。これを活用していただくことが可能となっておりますので、この補助金は、空き家を移住定住促進住宅。具体的には、お試し暮らし住宅、シェアハウス、賃貸住宅等に改修するための補助金で、改修費の2分の1、上限400万円を支援するというものでございます。邑南町では、今後も民間の活力を導入した住まい整備に努めたいと考えております。これまで民間賃貸住宅建設支援事業を使いまして、新築事業は平成26年から、世帯が28戸、単身用が26戸、計54戸。改修事業は、令和3年より7戸を整備し、令和5年度は、新築世帯用を6戸、単身用を2戸、改修を2戸の整備を計画しているところでございます。空き家を譲っていただけないかという話、今ご質問ありました。邑南町では、令和3年度から、住宅相談センターというの開設をしております。そこで、空き家バンク制度ということを見直しをした後に、今運営をしてるということでございまして、これは民間事業者との共同で運営をしております。これにおきまして、以前に比べて、非常に成約スピードが速くなっております。管理状態が良くて、比較的安価な空き家は、登録からおおよそ大体3か月以内に、成約してるというのが実績でございます。空き家バンク登録物件数が、ニーズに追いついてないという状況がございます。そこで来年度は、空き家所有者向けの相談会、ぜひ佐々木議員も来ていただきたいと思うんですけど、そういった相談会を計画してるところでございます。空き家所有者並びに町民の皆様に対する利活用に係る広報についても一層努力していくと考えております。邑南町としての移住者に対する支援としましては、地域みらい課のほうに移住コーディネーターが専任でおりますので、また相談等をしていただければと思います。よろしくお願いします。

●佐々木議員（佐々木敏影） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、佐々木議員。

●佐々木議員（佐々木敏影） 言われてることがそのまま、そのとおりだなと思って。このプロト作ったのが1か月前だったんで、あれから大分調べて、みらい課さんのほうも大分頑張ってるんだなということはわかりました。ただ、あえて言うならば、邑南が移住促進の町だって言ってるのであれば、お試し住宅がいるんですよ。絶対に。そこにコストがかかったりとか、いろいろ問題は少々問題はあると思うんですけども。一つ外から見たときに、お試し住宅はないんだこの町は。と思われちゃうのはどうかなあと私個人は感じます。なんで、一度検討していただけたらありがたいかなという。空き家、もし譲っていただけるんだしたら、私のほうで。例えば、ミック

さんとか、縁（エン）さんとかあるじゃないですか。別に彼らをディスってるわけじゃないんですけども、やっぱり1泊泊まるに1万5,000円とかかかかってしまう、縁さんも違うかな4,000円ぐらいだったかな。それはちょっと高いと思うんで、空き家を探すのに2週間ぐらいかかるじゃないですか。1日1万5,000円で、2週間泊まったら、めちゃめちゃ金がかかるんで。もし私がやるんだったら、2泊2,000円ぐらいでやりたいと考えているんで。そういう人間を東京から引っ張ってきたいと考えています。なので、頑張ってるとは言ってません。すごく理解しました、今回勉強して。

ということで、二つ目の質問にいきます。ありがとうございます。福祉としての多目的スペースです。私が福祉に興味を持ったのは、両親を連れて邑南に移住する準備をしている最中に、両親が2人そろって亡くなったんです。その時に実家の片付けを社協の方に助けてもらって。もう到底1人じゃできなかったんですよ。今まで生きてきて、その人に頼ろうとか支えてもらった経験がないので、その福祉って仕事に結構びっくりしたんです。日本全体の問題ではあるんですけども、この30年失われた30年間で頑張ってきた方たちをサポートする構造が弱いように。日本の問題ですよ、弱いように感じます。正直、私日本がここまで壊れるとは思ってなかったんで、自分が1970年代生まれなのもあって、希望を持って生きてきた世代なんです。若い方には、なかなか理解しにくい心情だとは思いますが、今のままだと、頑張ってきた方たちが、報われないように私は感じて、邑南で何かできないかなっていう。邑南には、余力があるんじゃないかなと感じているんです。特に邑南の人って、意地っ張りじゃなくて何だっけな。意思が強くてギブアップしないで、自分で解決しようとする方が結構多いと思うんで。そうじゃなくて、苦しみや悲しみをみんなで見合っ合って、素直に助けてといえるようなかたちに近づけられないかって、私は考えてます。意地はるっていうことが、美德だっていうこともわかりますよ。けども、1人で何とかしようとか、何とかするっていう時代ではないはずなんで、そこはちょっと変えていきたいなと思ってます。引きこもりとか、心の病、生活困窮、依存症。これ外見的には、何の問題がないような方たちが集まれる場所が必要なんです。そこが邑南にはないんです。役場、社協、その間がなくて、民生委員もしくは個人相談になっている現状は、少々問題解決には遠いように感じます。どういった形がベストか模索してはいますが、自分がNPO法人を立ち上げて、気軽に自由に集まれる場所があってもいいと思います。高原にはないような気がするんで、あそこ羽須美にあるてごおする会の、ああいうドームがあるじゃないですか。ああいう場所がいっぱいあったほうがいいと思います。なので、私は福祉のプロではないので、役場を含めて賛同、ご助力していただける方がいらっしゃいましたら、何卒ご助力お願いします。以上で

す。ありがとうございます。

○小笠原福祉課長（小笠原誠治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、小笠原福祉課長。

○小笠原福祉課長（小笠原誠治） 引きこもり、心の病、生活困窮、依存症などの方々が集まれる場所。福祉としての多目的スペースということで、ご提案をいただきました。ありがとうございます。まず、邑南町の状況をご説明させていただきますと、以前より、心の病というものを含む、いわゆる障がい者、障害のある方を対象とした、就労支援事業所や、地域活動支援センターというものが、創作活動や就労支援の場所も兼ねた集まれる場所という位置付けで、いわゆる居場所の一つとしての役割を長く担っておりました。これは申し上げましたように、障がい者という要件が必要になったわけでございますけども、近年では、このほかに、先ほど出ました引きこもり状態にある方々や、生活困窮の方々への支援の必要性が高まってきましたことから、さらに邑南町では二つの居場所が設けられたところでございます。一つは、障がい者の相談支援事業所である、ハートフルみずほが運営するポテトポスというところでございまして、これは学校卒業後の学校等のサポートが途切れた方々など、主に若年層を対象に、人との交流や、集団での活動を経験しながら、自己肯定感を育て、社会的自立を目指すことが目的に、様々な活動に取り組んでおられるところでございます。もう一つは、町社協、先ほど議員もおっしゃいました。社協が支援をする団体ですけれども、コミュニティ・ボンズというところでございまして、ある程度生活に困窮していらっしゃる方であれば、属性や性別、年齢等問わず、何らかの生きづらさや社会との繋がりやの困難さで、生活に不安を感じていらっしゃる方々などを幅広く、幅広い年齢層の方を対象に、寄り添い型の支援を行っているところでございます。この二つのどちらも、居場所や活動の場としてではなくて、ハートフルみずほ、町社協、それぞれ専門機関でございまして、それぞれの専門員による相談の場としても対応させていただいているところでございます。議員が理想としておられる、いわゆる多目的スペースというのは、外見何の問題がないような方々が集まれるような場所ということで、先ほど申し上げましたような二つの居場所の取り組みとは、要件が、これでもまだ限定的と思われるかもしれませんが、必ずしも一致しないかもしれませんが、ただ、町としましても、近年多様化する社会的な課題の中で、引きこもりをはじめとした様々な要因で生きづらさを感じておられる方々にとって、現在の居場所だけではまだ不足していたり、行き届かない面もあるかもしれませんので、居場所

の拡充であったりとか、多様な居場所の必要性も感じているところでもございます。そうしたことから、議員のおっしゃっていることは非常にありがたいということでございますし、議員のご提案の取り組みによって、居場所の選択肢が増えるということは、それを求める方々にとっては、望ましいことだと考えております。現在町内には、福祉事業所を中心に取り組むNPO法人がない中で、その立ち上げについてもご検討ということでございますが、実現までには様々な課題もおありかと思っております、そういった取り組みに関して、ご相談が必要でございましたら、役場のほうでも、NPO法人の担当課、担当部署ともに相談には対応させていただきたいと思っております。また引き続き、ご意見ご提案等ありましたら、よろしく願いいたします。

●佐々木議員（佐々木敏影） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、佐々木議員。

●佐々木議員（佐々木敏影） ありがとうございます。ポテトポスですよ、あとハートフルみずほさんあるのは存じてます。端的に言えば、役場主体で動いているとか、社協さんも役場の方もそうなんですけど、もうオーバーワークになってる部分があると思うんですよ。多分まかないきれない部分が絶対あるんで、そこを民間サイドのほうに、少しシフトを変えていく時代に入りましたよねって思うんです。その提案をさせていただきたい。かなりウェルカムなお話をいただいたんで、ちょっとびっくりしてるんですけども。民間サイドのでまるが絶対にいるんですよ。今邑南は、ちょっと心病んじやった人とかは浜田とかに行く。病院がないから浜田に行くんです。だから浜田に2時間半かけて行くってのは、もうほとんど小旅行なるんで、それだとやっぱり皆さん気軽には通えない。場所がやっぱりないっていうの、やっぱりまずいとは思うので。僕NPO法人やらしていただけるんだったらやりたいです。そんな甘い問題じゃないってのは、すごくわかってますよ。暴れる人もいればガラスを割るような、そういうことがあるかもしれないけど、それでもやっぱり頑張ってきた人たちで報われない人がいる世界。勝ち組負け組とに分かれているということ自体がおかしい。でも勝ち負けじゃないんだっていうふうの一つの答えを出す意味で、福祉の部分に力を入れるっていうのは、もしかしたら、邑南をこれからよくする部分の正しいボタン。そのスイッチ押したら、いい方向に向くんじゃないかなと。そこから固めていくほうが、絶対に町はうまくいくんだと思うんです私は。なので、自分が邑南に希望を持って来たんで、自分がやりたいことは福祉とデザインとプラモデルってのは、自分のプラモデルが一番やりたいんですけど。でも、人は人に優しくするって

うことが単にその偽善的なことじゃなくて、何でそういう福祉に興味があるかって言ったら自分を救いたいんですよ。人を救うってことは自分を救うことになるんで、私はそう考えてます。今日は、発言の機会をいただき、ありがとうございます。

○石橋町長（石橋良治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、石橋町長。

○石橋町長（石橋良治） 佐々木さんのお話を聞いて、私も本当だなと思います。実は私もこういうこともあって、何とか邑南町でも気楽に集まれる居場所づくり、そういうものを作りたいなと思って、実は岩手県の北上市に行ってきました。行ったところは、非常に明るい雰囲気、どなたも、いろんなことを自由にやってるんです。そこはNPOで運営されてます。そこの指導者の方と話をしましたが、その指導者の方は何にも言いません。ただ座って見てるだけ。あとは、いろんな方々がいろんなことあるんでしょうけども、本当に楽しく明るく話し合いながら自由にやってた。それが非常に印象的でした。ただ、どうしても行政がそんなことを考えると、型にはまるとか、いろんなことがあるんでしょうけども、佐々木さんがおっしゃってるように、志のある民間の方がそういうのを立ち上げて、そして気楽に来てよって。そういう居場所を作ってもらったら非常に私はありがたいなと思います。ぜひ我々も側面で応援と思いますが、志を大事にしていきたいなと思います。

●石橋議長（石橋純二） いいですか。

●佐々木議員（佐々木敏影） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、佐々木議員。

●佐々木議員（佐々木敏影） ありがとうございます、はい。

●石橋議長（石橋純二） 終わりですか。

●佐々木議員（佐々木敏影） はい、終わりです。ありがとうございます。

●石橋議長（石橋純二） はい、以上で佐々木議員の質問は終了いたしました。

ここで暫時休憩とさせていただきます。

——午後 1時59分 休憩 ——

——午後 2時 1分 再開 ——

●石橋議長（石橋純二） 再開をいたします。続きまして、通告順位第2号、日高健吾議員、登壇をお願いします。

（日高健吾議員登壇）

●日高議員（日高健吾） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、日高健吾議員。

●日高議員（日高健吾） 田所地区西鱒渕自治会の日高健吾です。私は、出羽の母子センターで生まれ、東光保育園、瑞穂小学校、瑞穂中学校、矢上高校、そして石見自動車教習所と、18歳までこの町で過ごしました。その後社会人として、現の広島県の廿日市市のほうで、社会人のデビューをしました。社会人のデビューをした後も、現の邑南町との付き合いは多く、住民である廿日市に住まれている方から、日高君ゴルフに水明カントリーに行ったよとか、石見地域においしい食事ができるところがあるのでちょっと高速飛ばして行ってきたんだとか、また冬になると豪雪の浜田道を車で走ってスキーに行ってきたよ、スノーボードしてきたよとか。市木に私の姓と同じ民宿がありまして、あそこって日高君の家とか。意外と広島県廿日市って遠いようなんですが、本当高速道路を使うと1時間ぐらいで行き来ができるようなまちに、ちょうど社会人としてデビューしました。その後結婚しまして、地元の方にUターンすることができました。Uターンした時期がちょうど市町村の合併があったり、邑南町の日本一の子育て村事業と重なりまして子供も2人生まれ、行政からの支援等もありまして、無事今中学校3年生と1年生というかたちで成長しております。また、邑南町といえ、春は桜や花桃があったり、夏は清流がありまして、蛍も飛びます。アユもいます。ハンザケもいます。また邑南町の出羽川にはカッパもいます。また、矢上にはやまんばもいます。また、秋は紅葉であったり、また雲海であったり。あと夜には神楽の奏楽を聞きながら、神楽を見たり。また冬は私もスキーが好きなので、スキーというかたちで、四季を通して感じられる自然と地域に根づく伝統の大切さを家族で

あったり、地域活動であったり、公民館活動であったり、また学校の活動やPTA活動等で教えられ、この町で過ごしました。また、Uターンした後も、地域の行事等に参加させていただいて、今も続くみずほの夏祭りに出かけると、地域の勢いを感じたり、出羽川を見ると当時この川の中をカップが走っていたなということを感じたり、また町内にある天空の宿いこいの村しまねに行くと、私が当時子供のころはゴーカートであったり、あとアスレチックというのがありまして、今も行ったら思い出しますが、一番最後につり橋がありまして、このつり橋を渡るのが怖かったかなというようなことを思い出します。当時隣接していたいこいの村しまねのスキー場もあったんですが、当時まだ瑞穂ハイランドスキー場がなく、スキーのリフト並ぶのに、すごい並んで上まであがって、こけながらスキーを一生懸命練習した思い出があります。また、ちょっと離れた隣接する石見スタジアムというのがあって、プロ野球のウエスタンリーグ戦も開催されたスタジアムなんですけど、それ以上に思い出があるのが、当時私まだ廿日市にいたときに、多分あのプレートがあるんですけど1996年の10月6日にあのイベントで、名球会が野球教室を石見スタジアムであるというのを聞きまして、当時は廿日市に住んでいたんですが、車でちょっと行ってみようということで、イベントに参加させていただきました。当時イベントで、トークショーという形で、横に芝生があるんですけど、そこで講演会等があって、ちょうど私当時あてていただくことができたので、トークショーのほうに参加させていただいて質問させていただいたり、その後なんですけど、名球会と石見選抜さんだったと思うんですけど、野球の試合を実際にされるというようなことがありました。そこでもなんですけど、当時の石見の野球チームなんですけど、2対1で最終回までずっと負けておったんですが、最後2塁まで石見の方が出られて、最後は続く打者がさよならランニングホームランを打たれて、最後には3対2で、石見選抜が名球会に勝つような、そんなイベント等も、石見スタジアムで繰り広げられた思い出があります。当時も今も邑南町昔とかわらず地域の力で支えられているなというのを、各1年を通した様々なイベントで感じることができます。今回町民議会を開催と聞き、邑南町瑞穂地域田所地区西鱒淵で育った住民として、通告した邑南町の未来地図、矢上高校卒業なので、矢上高校の応援歌にもある、未来パズルという曲があるんですけど、それにちなんで、2025年の邑南町の未来地図や、どんなことが想像できるかな未来パズルや、もう1点、もう少し先の未来になるんですけど、2030年で邑南町ってどんな様子になっているかなという、この2点を質問をしたいと思います。まず1点目が、2025年の交通インフラに対する質問です。2025年になりますと、島根県の東西を結ぶ、今しきりに開発されている山陰道というのが、概ね全区間開通する見通しであります。交通のインフラ、人の動きがもしかしたら変わって、邑南町に良い効果や、もしかしたら悪い効果

をもたらすかもしれないんですが、今の時点で、町の考えをお聞きします。

○白須産業支援課長（白須寿） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、白須産業支援課長。

○白須産業支援課長（白須寿） 初めに、山陰道について少しご説明させていただきます。島根県を東西に結ぶ山陰道は令和5年度に大田仁摩間が、令和6年度に出雲多伎間が、そして令和7年度に三隅益田間が供用開始される予定となっています。これにより江津市と益田市の一部事業区間を残し、島根県内の山陰道約83%が整備される見込みです。この山陰道は鳥取県、島根県、山口県の日本海沿岸を結ぶ延長約380キロの大動脈であり、広域での交流の拡大、地域の産業振興、観光振興の発展だけでなく、救急医療、福祉、防災のエリア拡大など、島根県内はもとより、山陰地方の生命線として、最も整備が急がれる重要な路線の一つです。特に令和6年度に供用開始が予定されている出雲江津間は、現在のところ、主要幹線道路が山陰道山陰海岸沿いを通る国道9号のみであるため、災害や救急搬送時の代替路としての山陰道の役割は、地域の安全安心のため、大変意義があるものと考えています。さらに、観光資源が豊富な島根県内において、山陰道の整備により移動時間が短縮されることから、新たな観光周遊ルート開拓にも繋がるものと期待しています。さて、これまで山陰道の供用開始の島根県全体のメリットについて述べましたが、続いてはご質問の山陰道の供用開始が邑南町にもたらす効果についてお答えします。邑南町として、山陰道の大部分が供用開始することによる効果としましては、主に2点が挙げられると思います。1点目としては、観光振興の面です。山陰道の大部分が供用開始する令和7年度は、現在再整備を行っている、新たな道の駅がオープンを予定している年でもあります。出雲大田方面と広島方面の往来のため、国道261号を通る利用者が、道の駅瑞穂をはじめ、邑南町の観光施設への立ち寄りの増加が期待できるものではないかと思えます。また、先ほど全県的に新たな観光周遊ルートの開拓に期待すると申しましたとおり、例えば、広島市を起点に松江城や出雲大社を目指す方が、中国横断自動車道、尾道松江線から山陰道、そして浜田自動車道を使った周遊ルートで、途中の三次インターを使って羽須美地域の三江線鉄道公園を訪れたり、瑞穂インターを使って香木の森公園を訪れるといったことも期待しています。2点目としまして、松江方面への邑南町民の移動時間の短縮効果です。山陰道ができるまでは、邑南町民は飯南町側の国道54号や、大田市側の国道9号を利用して、約3時間をかけて、県庁所在地の松江市へ行っています。また、医療面でも出雲市の島根県立中央病院への通院についても、

2時間あまりの時間を要しているところでございます。しかしながら山陰道の大部分が供用開始することにより、県庁のある松江市及び県立中央病院のある出雲市への移動時間が大幅に短縮されます。このことにより救急搬送の時間短縮により、町民の安心感が高まるものと期待しております。また、産業振興の面でも、移動時間、物流時間の短縮は、新たな企業が、邑南町に拠点を持つ可能性が広がるものと考えています。いずれにしても、山陰道の大部分が供用開始されることは、邑南町にとって、様々な面で、大変に効果のあるものと考えています。

●日高議員（日高健吾） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、日高健吾議員。

●日高議員（日高健吾） はい、ありがとうございます。私も想定した内容のお答えがあったので、非常に安心しています。方向として先ほどあったんですが、出雲や松江や安来やまたその県を超えて、米子に向けても時間が短縮になります。先ほど救急搬送のお話があったんですが、現在邑南町では公立邑智病院がありまして、ドクターヘリを使った搬送というのがあります。ただし夜間や悪天候時は、どうしてもドクターヘリを活用することができないのが現状です。ですが交通インフラが山陰道が開通することで、先ほども話があった県立中央病院や松江の搬送が安心感を持って、搬送することができるということもあります。また先ほど、流通の話があったんですが、もう現在取り組まれている方もおられるんですが、邑南町の採れたて野菜を、どうしても今までの発想だと山陽側、広島であったりっていうかたちに流通させていたんですが、松江市のほうに届けるという取り組みを現在されている方もおられます。となると今まで目線として、やはり山陽とか関西とかっていう形の目線であったんですが、やっぱり島根県の中にでも、新しく流通させていただくようなことができるのではないかなというのがあります。また、先ほど話の中にあった、今、田所地区で整備されている、道の駅瑞穂も概ね順調に進むと、同年の2025年にはオープンするという形で準備をされています。ですけどちょっと1点ほど先ほど周遊という話をちょっとされたので、1点疑問というか不安がありまして、交通のアクセスの話在先ほどもされました。三次インターから三江線公園に行かれたりとかっていう、ちょっと例えをちょっとされたんですけど、現在広島駅から皆さん持つてるスマートフォンとか、もしかしたら車のナビゲーション。ゴール地点を、ちょうど石見銀山あたりとか大田市のほうに、今現在ナビでスタートしてセットすると、ちょうど2時間10分ぐらいで、広島から大田市まで行くことができる。そのルートってというのが、ちょうど邑南町、

大朝インターもしくは瑞穂インター降りて、邑南町を通過して、川本町を通過して、大田市に流れるというルート案内します。最近もっと検索すると、もう1ルート、今ヒットするようになってます。それが浜田道をそのまま浜田市まで行って、江津市で一旦高速道路降りて、また大田市で今開通している大田市の区間を通ると、ちょうど261を通ると大体2時間10分というアナウンスをするんですが、今の現時点で大田市までが、大体2時間15分とか20分で行けますよというアクセスをされます。私も会議等で大田市で会議をする時に広島から来られる方もいるんですけど、どうやって来られましたというので、道の駅で1回休憩してきたよということを伝えられる方もおられますし、また一方、高速で浜田からぽっと来たよというようなことを答えられる方もおられます。やはり今、邑南町交通アクセスで、今浜田作木線のほうも、邑南町を通過して浜田にとかっていうようなところも、まだ整備がなかなかいってなくて、ちょっと大型の車が通ったり観光バスが通ったりというのが難しい。また先ほども話があった、三江線の公園に行くにもちょっと観光バスが入ったりってというのが難しいところがあるので、やっぱりそういうふうなところで、大きな道路はどんどん良くなって、人の流れが変わってくる。その反面もしかしたらこの邑智郡の3町、邑南町であったり川本町だったり美郷町であったりするところが空間になって、穴が入ってしまうようなことがないように、やはり邑智郡内の3町協力して、しっかりと地元をしっかりとアピールしていただきたいなというのがあります。で、2025年に、道の駅瑞穂がやっぱりオープンするとなると、やはり今集客の柱である産直市の、魅力的な発信というのが大切になると思います。もちろん、道の駅瑞穂に集まる商品なんですけど、やっぱり季節を通したものがしっかりと提供されないといけないので、やはりそこに商品が集まる仕組みっていうのも大切になると思うんですが、邑南町の道の駅がオープンして、その後、産直市に各12地区から、魅力的な商品が集まるような取り組みも必要となると思うんですが、そのような町の取り組みで想定されることがありましたら教えてください。お願いします。

○白須産業支援課長（白須寿） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、白須産業支援課長。

○白須産業支援課長（白須寿） 令和7年度にオープンする道の駅瑞穂、産直市みずほのオープンに向けての取り組みの状況でございますが、大きく考えまして、生産面をしっかりとしていくこと。それから、その生産されたものをしっかりとその道の駅へ出してもらおうということが大事だと考えております。生産面におきましては、高齢

化という課題を抱えておりますので、この高齢化という問題は町全体の農業の課題でもございますが、いろいろな補助事業とか、それから町の単独の補助事業でも、産直市向けの小規模な農家が利用できるような補助事業なども整備いたしまして、何とかこの生産体制を、担い手の確保という面と、それから、産直員の小規模な産直市へ出荷されるような小規模な農家を育成しようと考えております。それからしっかりと物を集めるといところでございます。今課題としてあげられる中に、集荷のシステムというのが必要なんじゃないか。高齢化によって農産物を道の駅へ出荷すること自体が、なかなか難しいという農家もいらっしゃるようでございます。そういったところを何とか支援できないかということで今検討を進めているところです。またあわせて、生産を通年を通してなるべくその農作物が少ない時期がないように、そういった作付調整なども、道の駅のほうで専門の担当の方を置いていただけてまして、いろいろ農家のほうを歩いたり、地区別の懇談会などで、そういった作付調整のようなお話もされているようでございます。いずれにしても、道の駅瑞穂、産直市みずほを今よりかなりスペースも広く、出荷しやすくなるわけでございますので、そういった道の駅の特性がしっかり農業振興に結びつくように、準備を関係機関と一体となって進めているところでございます。

○石橋町長（石橋良治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい。石橋町長。

○石橋町長（石橋良治） 私のほうから、時間ないんで簡単に情報提供させてもらいますけども、実はNEXCO西日本さんは、来年度浜田道をいかに活性化するかということで、いろいろとプランを練っていらっしゃいます。従来からの浜田市、江津市、邑南町とが中心になって浜田道の利用促進の協議会を持っておりますけども、そうした会議の中でそういうことがおっしゃってます。これは来年度のある時期、いい時期に一定期間周遊パスっていうものを使って割引をしていく。その時に、例えば瑞穂インターあるいは大朝インターで降りた場合に、道の駅瑞穂を利用したいと。そうした場合も想定されますので、得点クーポン、こういうものも付与していきたいと、いうことを考えております。今回も大変旅行が非常に活発になって、道の駅もこないだ伺ったら、非常にクーポン券の活用が多いということがございました。ぜひ西日本、NEXCOと一緒に、来年度活性化するよう頑張っていきたいなと思います。

●日高議員（日高健吾） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、日高議員。残り時間が10分となっております。

●日高議員（日高健吾） ありがとうございます。素晴らしい答弁をいただきまして、本当2025年安心して邑南町迎えられるな。しっかりと未来地図、未来のパズルは作られているなというのが実感できました。ありがとうございます。続いて、もう5年先の未来の話をさせていただこうと思います。ちょうど、西暦でいうと2030年になります。ちょうど2030年には、島根県で第84回を迎えるそうなのですが、国民スポーツ大会と第29回の全国障害者スポーツ大会が島根県で開催する予定があります。邑南町として、この国民スポーツ大会にどのような関係を持つかというかたちで町のお考えをお聞きします。

○三上生涯学習課長（三上徹） 議長、番外。

●石橋町長（石橋純二） はい、三上生涯学習課長。

○三上生涯学習課長（三上徹） 2030年に島根県で開催される、国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会への、町の関わりについてでございます。初めに、国民スポーツ大会という名称ですが、スポーツ基本法の一部を改正する法律が平成30年6月13日に成立しまして、その時に国民体育大会の名称を2023年から国民スポーツ大会に変更すると改正されました。現在までの島根県開催の経過と状況でございますが、平成30年に島根県開催で内定を受け、国民スポーツ大会の準備室が設置されました。令和2年に市町村連絡会が開催され、開催地、開催競技の希望がとられました。邑南町は、競技として成年男子軟式野球を、開催場所は石見スタジアムと瑞穂球場の2か所を希望しております。軟式野球を含む開催地の決定していない競技が、現在調整中ということで、まだ決まっていない状態でございますが、この開催地の決定していない協議につきまして、今月開催が予定されている準備委員会総会にて正式な発表が行われます。本町としましては、正式に邑南町開催が決定されることを期待を込めて、発表を待ちたいと思っております。決定をいただいた後は、行政として国民スポーツ大会に向け、確実な歩みを進めるための組織の充実を図り、日高議員が体験されたような多くの子供たちに夢を抱いていただけるような大会に向けて、町民の皆様のご理解ご協力を得ながら、2030年の開催に向けて進めてまいりたいと思っております。全国障害者スポーツ大会につきましては、島根県から情報が入り次第、邑南町がどのような関わりが持てるか、研究してまいりたいと思っております。以上

です。

●日高議員（日高健吾） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい。日高議員。

●日高議員（日高健吾） はい。回答ありがとうございます。スポーツ大会のほう開催されて、開催地として邑南町のほうがなりましたら、やっぱり開催地として関係を持つだけでなく、何とか邑南町に今いる小学校の中学年以上の方を、実際に選手として参加できる可能性がある子供たちになります。会場だけを誘致するのではなくて、その実際のスポーツ大会に参加できる子供を、いろいろな育成事業のほうも、大会準備委員会のほうの資料を見ると、支援事業があるのでそういうものを使って、現在でも邑南町から全国大会に出場している子供たち、アスリートがいます。やっぱりその子供たちが、2030年に、見に行くのではなくて、実際に競技者として、邑南町、島根県を代表する選手として出場するための育成というものもしっかりやっていただきたいなと思います。また、その後、先ほど話があったんですけど障害者スポーツ大会のほうも、今後要綱が出てくると思います。先般の開催された東京オリンピック・パラリンピックの際はゴールボール等、ホストタウンとして、障害者スポーツの理解と振興を邑南町非常に取り組んでいただきました。先般も元気館のほうで、ゴールボールの大会のほうも開催をされたというかたちで、本当邑南町、普通のスポーツ大会、また障害者スポーツ大会の理解と振興に非常に努めている町でありますので、そちらの面と、会場の誘致もなんですけど、2030年実際、邑南町の子供が育った子供が選手として活躍していただけるように、願っておりますので、そちらの点のサポート、支援のほうももしかしたら行政として難しいようだったら、町内にある邑南町体育協会を通してでもいいですので、しっかりと、育成にも力を入れていただきたいと思います。残りあまり時間がないので、すいません、もしかしたら最後の締めになるんですけど、最後に、私がちょっと最後言っておきたいのが、今、邑南町というのは、邑南町に住んでいる人だけのものではなくて、やっぱり今から生まれてくる子供たちも、やっぱり生活していく町でやって欲しいと思います。やっぱり2030年以降もどんな形であっても、邑南町で生まれて、邑南町で育って、もしかしたら邑南町から外に旅立っていく子供もいるかもしれませんが、現在、やっぱり町としても行政としても、また町民としても、いろいろな議論があるんですけど、やっぱり町民と行政、また今日この場にいる自薦他薦もあると思うんですけど、町民の信任を受けて、当選してこの場で議論する議会のこの3者がそれぞれの責任をしっかりと果たして、邑南町

の2030年以降の未来地図であったり、未来パズルをしっかりと描いて、描くだけではなくて、しっかりと実現させていただくための活動行動していただきたいと思います。ちょっと時間の関係がありますので、これで私の質問のほうを終わらせていただきます。ありがとうございました。

●石橋議長（石橋純二） はい。以上で日高健吾議員の一般質問は終了いたしました。ここで休憩に入らせていただきます。再開は午後2時40分といたします。よろしく願いをいたします。

——午後 2時 28分 休憩 ——

——午後 2時 40分 再開 ——

●石橋議長（石橋純二） 再開をいたします。続きまして、通告順位第3号、柘植賢志議員、登壇をお願いします。

（柘植賢志議員登壇）

●柘植議員（柘植賢志） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、柘植賢志議員。

●柘植議員（柘植賢志） 私は、邑南町高見地区在住の柘植賢志と申します。どうぞよろしくお願いします。本日はこのような貴重なお時間、また貴重な体験をさせていただくことに関しまして、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。私のことご存知ない方もいらっしゃると思いますので、簡単に自己紹介のほうさせていただければと思います。私の仕事なんですけども、お隣の浜田市にあるセイフティーサポート株式会社というところで、保険の代理店に勤めてます。毎日1時間15分ほど小旅行じゃないですけども、通勤をさしていただいているんですけども、毎日すばらしい田舎の風景景色を堪能しながら通っております。特にこの時期になれば於保知盆地から、ちょうどいこいの村のほうからおりてくるんですけども、於保知盆地がすばらしい雲海を臨み、その雲海を写真に撮ってSNSに毎日アップしてるんですけども、今日もアップしてきました。そこでは、毎日違った雲海仲間がいるんで写真撮って、何人かいらっしゃるんですけどもその雲海仲間と出会って、毎日雲海談義に花を咲

かせていると。朝から本当にすばらしい時間をいただけるこの邑南町、そしてこの自然を残してこられた先人の方々、毎日感謝をしているところでもあります。地域のほうでは趣味サークルとして、地域団体たかはらんどっていう任意団体に所属しております。そして高原小学校の存続を目的として、商品開発、製造販売、イベント企画運営をさしてもらってます。先般11月23日に行われました、高原市2022、第6回肉を食う会、高原小学校創立146周年記念大会with高原公民館まつりでは、多くの方にご来場いただきました。ありがとうございます。また、大橋教育長、そして落合校長にご祝辞を賜りましたこと、この場をお借りしまして、主催者代表といたしまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。これからも高原小学校の存続に向けた活動を展開してまいりますので、これからもご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。さて、前置きがちょっと長くなっただけですけども、早速本題に入らせていただきます。私からは、この町の人材不足解消に向けたというところで、健康経営推進施策についてであります。この邑南町では、慢性的な人材不足っていうのが続いております。邑南町基幹産業である、建設、運輸、医療、福祉、小売業など、このままでは持続可能な社会を実現できるのか不安もあるところでもあります。今は、災害で道路が崩れたらすぐに直してもらってますし、大雪が降っても、私たちが家を出るときには、除雪車で雪をかいてもらってます。すごくありがたいし本当に感謝しております。今はいいけども、数年後数十年後その職人さんや技術者が少なくなってきたらと思うと、少々不安であります。そういう職員さんや技術者というのは、一朝一夕にはいかず長年の経験というものが大切だからであります。つまり、育てていく時間が必要なのであります。そして、2年後には2024年問題を抱えている運送業さん。これも36協定のお話なんですけども、運送業者など待たなしの業界もあります。定年制についても今年の4月、暫定的がありますけども70歳になりました。ですから、私たちは70歳以上まで、いきいきと働き続けられる環境というものが大切になってくるのであります。持続可能な企業と、そこにいきいきと働いてくださる従業員さんにあふれている社会こそが、これからの邑南町を下支えをしていくものだと思っております。企業の持続可能といえば、令和元年度から中小企業庁が進めています、事業継続力強化計画認定制度というものがあります。これは中小企業版BCPの策定、簡単に言えば防災減災に取り組んでいる企業を、国が認定しようじゃないかということなんですけども、邑南町今日時点で、この4年間で認定が現在10社、この国の認定を受けてるところであります。そして、前回の種議員の質問にもありましたけども、経済産業省2017年度から行っている、健康経営優良法人認定制度については、邑南町の現在2社ほど国からお墨付きを与えられた企業さんがあります。そのうち1社については、来年の申請。ですから再来年の認定になるんで

すけども、ブライト500っていう全国で500番目に入るといふようなところを目指していくと言われております。前回、この健康経営につきまして石橋町長も坂本保健課長も、健康経営について前向きなご意見ご発言をいただいたところで、私としても大変うれしく思っております。ちなみに、この健康経営優良法人制度については、地方公共団体でもこの制度については取得可能でございます。先日、フレックスタイムを導入され、職員の働きやすい環境に配慮されておられる邑南町役場の皆さん、邑南町役場としても、この機会にぜひ手を挙げていただいて、官民と一体となって、この健康経営の取り組みを推進していただけたらなと思つている次第であります。現在邑南町では邑南町商工会さんが中心となって、健康経営の推進普及に取り組んでおられます。毎年健康経営推進セミナーを行つておりますので、またよかつたら、ぜひご参加いただけたらと思つております。これは私の個人的ではあるんですけども、この健康経営っていうものなんですけども、わが町が進めている施策と極めて相性が良いように感じてゐるんです。例えば、ノルディックウォーキングなどのヘルスツーリズム。あとA級グルメもそうです。あと地区別戦略事業、いわゆる通称地区戦つていう事業。あとは公民館事業やその他事業と非常に相性がいいと僕は思つてゐるんです。その理由は二つあるんですけども、一つは、例えばその健康経営優良法人制度に取り組んでいこうかなと思われてる場合について、企業さんがですよ。その項目の中に、独自に従業員さんの健康づくり増進に関わること、何かやつてますかという項目があります。私も何社かと一緒に取り組んできた中なんですけども、ここの項目で悩まれてらっしゃる事業者の方結構多いんです。皆さんそういった独自で取り組みはしたいんですけども、結局目の前のことが忙しくて、そこへ手つけることができないと。独自に自分たちで何かするつてことは、ハードルが高いということを、結構おっしゃつたりすることがあるんです。であるならば、例えば、現在邑南町さんが取り組んでいる健康づくりのイベントであつたりとか、地域の健康づくりの取り組みを情報提供して、それを企業として従業員参加、事業と一緒に参加するよというよな、それを促していくつていうことがあつても、僕はいいんじゃないかなと思ふんです。そういうこともできると思ふんです。例えば、ビレッジプライドさんが委託を受けている先ほどノルディックウォーキングであるとか、公民館事業である冠山登山とか、田所のどがあずしよ会さんがやつてゐるよな二ツ山のイベントとか、日和のバスケット大会とか、企業として参加をするとか、そういったところで健康経営に取り組んでいくつていうこともあると思つていて、邑南町にはそういった豊富なメニューに実は溢れてゐるんじゃないかと思つてゐるんです。また、面白いところで京ら屋さんというお店があるんですけども、京らさんがいわみんというイベントを行つてゐるんですけど、これノルディックウォーキングで体を動かした後に、蕎麦を食べようというのがあるんで

す。これ本当に大好評で毎回大盛況なんです。これは、まさに健康づくりとA級グルメの、相乗効果というすばらしいイベントじゃないかなと僕は思ってるんです。今までは、例えばその会社と家の往復が多かった従業員さんも、こういった健康づくりをきっかけとして地域のことを知ること。そして、また地域の人を知ることの第一歩にも繋がってくるんじゃないかなって、思ってるんです。二つ目なんですけども、これは介護費用、医療費用のことになります。邑南町は、高齢だが介護認定を受けてない方の割合が多く、全国平均と比べると単年で約3億3,812万円の介護費を抑制していると資料に書いてあります。また医療費用のほうでも、抑制の県内トップクラスだと私は記憶してるんですけども、つまりこのデータから見ると、邑南町は健康でいきいきと暮らしてらっしゃる方がすごく多い。藤山先生の言われるように、お達者が度高いということになります。これは健康経営を進めていく上で、大きなプラス材料になると僕は思ってます。全国では、雪だるま式に増え続けてるこの社会保障費。そのためには税金を上げようじゃないかという話もあつたりもします。そして、2024年にはこの公的介護保険改定で、利用の自己負担が増えるんじゃないかとも言われてる。我が町が社会問題に対して健康経営に取り組むことをによって、注目される日も近いんじゃないかなと、大いに私は期待してるところであります。また、わが町にはなぜこんなにもお達者な方が多いのか。病院にお世話になる方が少ないのか。もしかしたら私たちが日頃食べているもの、もしかしたらそれに何か秘密があるかもしれません。わかりません。仮にそうだとするならば、それも私は一つのA級グルメじゃないかなと思ってるところです。いつまでも本当に健康でいたいからとか、邑南町で働きたいって、健康で働きたいよという方が邑南町でたくさん増えてくれれば、本当に私もうれしい限りであります。ぜひとも、官民一体となった健康経営というものを、進めていただきたいと思います。ただ、先ほどの事業継続力強化計画認定制度であつたり、今回の健康経営優良法人制度の中でも、町民の方はこういったことをあまり知らないという方も多いんじゃないかなと思ってるんです。国から認定を受けた立派な事業者が、我が町にこんなにたくさんあるというのに、そういうのは本当に我が町の誇りであると思ってます。認定された事業者がどういった取り組みを行っているのか、ホームページ上に掲載していただいたり、またケーブルテレビなどで町民に知ってもらったり、矢上高校に情報提供したり、これから邑南町に住みたいと思われるような方々に情報提供もしつかりと、宣伝してもらいたいと思います。また、認定まではされてらっしゃらない事業所の方であったとしても、この健康経営の取り組みについて、すばらしい取り組みをされてらっしゃるところもあるんです。そこはとても本当に参考なる取り組みも非常に多いので、そういった共有できる仕組みみたいなのが、できればいいんじゃないかなと思ってます。昨今では、求人者の意識って

うの昔と違って大きく変化しております。今の若者達ってのはお金そのものよりも、会社の理念であったり企業が果たす社会的使命に共感したり、職場での働きやすさ会社の福利厚生を重視する傾向が見られるようになってきました。また、企業の責任というの、同時に大きくなってきました。従業員さんの健康管理を怠っていた場合、企業の法的責任も免れなくなってきたのも事実です。従業員さん健康診断に行かすようにと、労働基準監督署にも言われてるとは思うんですけども、従業員さんの健康管理を怠り万が一安全配慮義務違反は、また、使用者責任と追求されるということになれば、政府労災以外での賠償金支払いによって、最悪その企業自体が倒れる危険性というのもあるわけですから、企業さんも対岸の火事ではないことになります。そこで日本政府は、2017年度よりも先ほどのちょっと繰り返しになりますけども、健康経営優良法人制度というのを創設しました。背景とすれば、当時ブラック企業が社会問題となっており、働き方改革を協力的に推進していくための施策として登場してきたのが、健康経営優良法人制度であります。これは社員の健康が、会社の健康繁栄に繋がるというもので、社員の皆さんにいつまでも健康でいきいきと働いてもらうこと。結果的に生産性を高めていく、いわゆる経済手法であります。ちなみに健康と名はついていても、所管については厚生労働省ではなくて、経済産業省になります。2021年に、認定数、常に全国中小企業数の認定数なんですけども、1万2,255社あります。2020年度については、7,000ぐらいだったんですけども、約4,000、5,000ぐらい、ちょっと増えてるという形になります。先ほどのちょっと繰り返しになりますが、邑南町では現在2社が認定されてると。しかし、これは毎年申請になりますので、毎年取り組んでいく必要があります。ちなみに、今年から経済産業省から日本経済新聞社が委託を受けて、申請は有料になりました。今まで無料だったんですけども、今年から有料になりました。ちなみに登録料というのは、約1万5,000円ぐらい。と同時に健康経営を推進していくために島根県の協会けんぽで、先日もちょっと話ありますけども、マネジメント認定というものを行っています。これは1回認定されれば、半永久的認定されるものになります。これは健康経営優良法人制度に進む前の前哨戦として、比較的とりやすい認定制度になります。先日坂本保健課長おっしゃってたように、出前講座や機器の貸し出し等のサービスもありますけども、私が今この何年間企業さんと話をしている、一番興味を持たれたのは、金融機関による金利優遇制度でした。これは、マネジメント認定をとられた企業さんの従業員さん全員を対象として、山陰合同銀行そして島根銀行のマイカーローン、教育ローン。金利を優遇するものになります。普通より安く入るっていうこと。これだけでも福利厚生として、職場の求人票のほうに記入することができるっていうことで、他社との差別化を図れるってことらしい。ただやっぱりにんじんぶら下げてやってるっていうよ

うな、ように仕向けることがいいのかどうかとはまた別として、取り組むきっかけの第一歩にはなるんじゃないかなと思ってます。また協会けんぽさんについては、現在山陰中央新報さんが全面的に健康経営をバックアップして広報してくれております。そしてまた各保健所、ホームページ等々でPRをしていております。邑南町認定企業さんを、確か石中央保健所のホームページの方に記事がアップされております。先ほど、健康保険推進については、わが町においても邑南町商工会でのセミナー等々で取り組んでいるとお話しましたが、このように国や県そして邑南町商工会としても、この健康保険というものを企業成長や健康意識の増加へと、取り組んでおられる状況ですので、そこは、ぜひともこの機会に、邑南町としても邑南町商工会や町内の皆さんと一緒に、この健康経営優良法人制度取得、そしてまたこの運用を目指していただけたらと思っております。活力のある強い企業体そして持続可能な社会を官民一体取り組んでいただければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。この、健康経営の取り組みについて町のお考えをお聞かせください。

○坂本保健課長（坂本晶子） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、坂本保健課長。

○坂本保健課長（坂本晶子） ただいま柘植議員のほうから健康経営に対して、大変な熱意でご説明いただきました。この健康経営に対する町の取り組み支援について、保健課の方からご説明をいたしたいと思っております。先ほどのご説明の中にありましたように、これらの制度については比較的歴史が浅いと認識しております。そして、島根県の方では同じく健康長寿しまねの中ではしまねまめなカンパニーということで、これらの制度設立を受けて、島根県としても取り組んでいる経過がございます。本日こうして詳しくご説明をいただいたことで、こういった制度があるんだということ、この場ではありますけれども皆さんに広く周知ができたのではないかと考えております。保健課の方では、先日の種議員の中でもご紹介をさせていただきましたけれども、健康長寿推進組織の健康長寿邑南推進会議でありますとか、自死対策計画推進委員会の構成委員として、企業代表の方にご参画いただいております。先ほど議員の方からもご指摘がありましたように、介護予防とかっていう方に対しては非常に取り組みが進んでいて、特定健診をはじめ医療費のほうでは国民健康保険では大変医療費も安いということでもありますけれども、一つには働き盛りの方の健康づくりに着目していきたいと、この推進委員の中にご参画をいただいていた経過がございます。その中の活動交流の中で町内の事業所より、先ほどもご紹介ありましたけれども、令和元

年度の会議の中でお聞きをいたしました。また、その事業者の皆さんは、県央保健所主催の研修会で町内の事業所の方が活動紹介をされたり、あるいは県保健所の広報誌にご紹介をされたということもお伺いをした経過がございます。これを受けまして推進委員の皆様から、その当時大変参考になる意見だと、保健課の今後の具体的な取り組みの案として、ホームページやケーブルテレビを活用して事業所さんのリレートークという形で紹介をすることで、広く町内の事業所の皆様に知っていただいてこの認定制度をご利用いただく、ひいては事業所の健康づくりにいかしていきたいということで計画をしていたところでした。しかしながらその直後でございました。コロナウイルスが感染拡大をいたしまして、なかなか事業所との行き来が制限されたことでもありますとか、保健課の事業が新型コロナワクチン接種を最優先な事業と位置付けたことで、事業所と連携した健康づくりが実施できないまま、今日に至っているところなんです。しかし、今後取り組みを検討すべき課題としては認識をしているところです。保健課といたしましては、この健康経営に対する取り組みというのは、特に疾病予防、疾病の早期発見、早期治療等、非常に健康づくりによる健康寿命の延伸でありますとか、医療費削減を目指したものと位置づけておりまして、今後も協会けんぽ島根支部等関係機関と連携をして、取り組む必要があると考えております。現に、町内の事業所の皆さんは、先ほど議員さんのお話の中にもありましたけれども、身近な施設を活用してその具体的な計画の中に元気館を活用して取り組みを進められたとお聞きしておりますので、先ほど来たくさん説明をいただきましたいろいろなアイデアを盛り込んで、今後検討していけたらと思います。そして、その取り組みがご指摘のとおり、ひいてはこの事業所の働き手不足、解消に繋がるということはこのたびのご意見を受けまして、改めて保健課としても認識をしております。今後は、産業支援課等、町内関係機関とも連携して進めていきたいと思っております。

●石橋町長（石橋純二） 残り時間が5分を切っております。

○大賀総務課長（大賀定） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、大賀総務課長。答弁は簡潔にお願いいたします。

○大賀総務課長（大賀定） 邑南町役場におきましては合併以来、労働安全衛生法の定めによりまして、衛生委員会を設置しております。邑南町役場が働きやすい職場となることを目指して、職員の健康保持増進に努めているところでございます。衛生管理者並びに産業医を置きまして委員会を毎月開催をしており、産業医の先生からご

指導ご協力をいただきながら、取り組みを進めております。取り組みは年に1回の定期健康診断、ストレスチェック、インフルエンザワクチンの集団接種、職場環境に関するアンケート調査、職場巡視の実施、メンタルヘルスやハラスメントなどに関する職員研修など、多方面にわたっております。あわせて、各部署におきまして人権啓発研修推進を選任し、推進委員による職場内での研修、職場全体での人権研修も毎年実施しているところでございます。職員の精神衛生につきましては、産業カウンセラー、臨床心理士、各1名の先生をお願いをして、職員のカウンセリングを月1回以上実施をしているところでございます。現状におきまして、議員ご提案の健康経営優良法人認定制度などに申請をしておりません。この制度につきましては、神奈川県の小田原市や鎌倉市役所など、複数の市町自治体で申請認定されていると伺っております。よりよい高いサービスの提供に繋がるものであると考えておりますので、現在までの取り組みを進めていながら、この制度について研究をしてまいりたいと思っております。

●**柘植議員（柘植賢志）** はい、議長。

●**石橋議長（石橋純二）** はい、柘植議員。

●**柘植議員（柘植賢志）** はい。ありがとうございます。ますます、健康増進に向けて邁進していただければと思うんですけども、例えば当社、うちの会社なんですけども、健康経営優良法人について今年3年目の申請になります。結局取ったら結局どうなのかとよく言われるんですけども、当社の場合だと、劇的に病欠率が下がりました。はい。そして、有給消化率、消化率がかなり上がりました。それと、残業時間、激減になりました。残業しないということを謳っておりましたので、そこで生産性を上げていたと。こういうところで、経営的にも寄与できたんじゃないかなというところでもあります。これから、本当に人材については、どこの企業さん等々についても、本当にしんどいところやってらっしゃると思います。そして、踏ん張って、頑張ってやってらっしゃる事業さん等々もございますので、また邑南町もされて、各事業所さんのほうを、下支えをしていただけるようにと、切に願うばかりでございます。はい。以上、私からの質問を終わらせていただきます。今日ありがとうございました。

●**石橋議長（石橋純二）** 以上で、柘植議員の一般質問は終了いたしました。ここで暫時休憩とさせていただきます。

——午後 3時 9分 休憩 ——

——午後 3時13分 再開 ——

●石橋議長（石橋純二） 再開をいたします。続きまして、通告順位第4号、石飛正一議員、登壇をお願いします。

（石飛正一議員登壇）

●石飛議員（石飛正一） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、石飛正一議員。

●石飛議員（石飛正一） 4号議員の石飛であります。井原であります。本題に入ります前に、私はこの町職員の皆さんに心から拍手をしたいという気持ちを述べたいと思うんでありますが、現在庁舎内におきまして声かけ運動ということ、非常に素晴らしい運動されていると認識しております。やはり、これは全国の各自治体から邑南町に視察に多く来られておると思いますが、これからも続くわけではありますが、やはり玄関に入った途端のいわゆる第一印象、ファーストインスピレーションというのが、非常に重要であるということが世の中でもいっておられます。そういう中で、やはり第一印象を良くするためには、こういう声かけ運動が極めて重要なテーマだろうと僕は認識がおりまして、これからますますこの印象がぐんぐん上がっていくのではないかと考えておりますし、期待をしているところであります。ますます研鑽を重ねられまして、邑南町役場の職場の文化として、さらにさらにグレードアップしていただきたいに思っております。もちろん私たちも応援いたします。さて持ち時間があまりありませんから早速本題に入らせていただきますが、通告3項目をやっております。そこで、初めに一括して私の意見考え方を述べさせていただきます、あとから回答していただく。また時間がありましたら、一問一答方式になると思いますが、ごく短く簡潔に要点を絞って申し上げたいと考えておるところです。まず1点であります。全町における一体感の醸成に向けて、町民大運動会をやろうということを提唱したいです。このことにつきましては、数年前の邑南町向こう10年間に関わる総合振興計画、いわゆる総合振の中で、基本目標第1項に、町民の一体感のさらなる醸成を図っていこうと。また、まちづくり基本条例というのを作っておるわけですが、その理念によりまして、町と町民が一体感を持って取り組んでいこうと書いてあるわけで

す。私は、これは最大の重点項目と認識しておりまして、総合振のスローガンでもあります。“心をかよわせて ともに創ろう 邑南の郷”、という方針があるわけでもあります。それを具体的に実践することはどうすればいいかというのを、ここ数年いろいろ考えてきましたが、私の考え方としましては、まず一同に集うということが重要なテーマだろう。そこで、町民大運動会をやろうじゃないか提唱したいんです。簡単に言いますが、大変な事業であると思いますから、まず実行委員会を組織する。そして、重要なテーマといいますか事業でありますから、全町をあげて、全課長さんとそれに加えて体協の役員。これでまず組織をして、その中で具体的に知恵を絞るふうにしたらいんじゃないかと。会場におきましては具体的な私の考え方を申しますが、三つのエリアを持ち回りでやってみよう。例えば羽須美だったら羽須美中のグラウンド。瑞穂だったら瑞穂球場、あるいは青少年旅行村。石見だったら石見スタジアムがいいんじゃないかと、僕は考えておりますけど。それ時期は大体5月ごろ。農繁期が一応一段落した頃がいいんじゃないでしょうか。秋には現在各地区で各地区民体育大会やっておりますから、それはそれでやればいんですよ。そして種目の関係につきましても競技をするというよりも、まず人が集まる、集まろうじゃないかと。集まってお互いに人を知り合うという人間的な交流。人的交流といいますかそういうところに主眼を置いて、ゆったりしたプログラムで時々競技をすると感覚でやったらどうかということですから、まず、お互いに知り合うというところに力点を置く。力を置いてやろうじゃないかということでもあります。チームにつきましては、当面公民館単位で12チームでやってみると。それが多いか少ないともありますし、公民館でも所帯数の多いところ少ないところあるんですが、まず、公民館単位の12チームでやってみようということでもあります。そういうような構想のもとでやれば、この一体感の醸成に向けてね、具体的にお互いに知り合って心がかよひ、心がつなぐということになろうかと思っておりますので、ぜひやろうじゃありませんか。それでまず、通告では検討委員会と言っておりますが、考え方としては実施する方向で研究会を起こすと。研究会の中でお互いの知恵を絞ると。アイデアを練り合って、前を向いてね考えていこうじゃないかと考えを、私は思っております。ぜひ実現する方向で考えてみようじゃありませんか。

そして、第2項目の関係に入りますが、アイデア承りボックスというように表現しておりますが、これは僕名称にはこだわりません。要するに、多くの皆さんからいろいろ邑南町政に対するアイデアというものを、募ろうと集めようというのが趣旨でありますから、これはまちづくり基本条例の中にも照らし合わせていろいろ考えたんですが、この中で6条。9条。23条ぐらいにあるわけです。6条というのは、町民参加の場。その機会の確保に努めようという内容です。9条につきましては、広く町

民の参加、多くの意見を集める。23条につきましては、町職員の責務として、積極的にまちづくりに取り組まなければならないように書いてあるわけでありまして。これらの条文に照らして考えたときに、やはりこのアイデア承りボックスというのは非常に重要なテーマになってくるのではないかと。今島根県でも、知事に対する提案という制度で取り組んでおりますよね。よその市町村におきましても、例えばすぐやる課とかね、いろいろ市長に提案して欲しいとかいう取り組んでおるわけです。ですから邑南町としても、ぜひ気軽にアイデアを集めるという、僕にすればアイデア承りボックスと表現しておりますけれども、そういうものを作って集めるということが大事だと思うんですよ。最近フレックスタイムというのを導入されたわけでありまして、その目的としてもこの積極的に地域の運営に携わり、地域の担い手として貢献することを推奨していくと明記されているわけでありまして。ですからこれを実際に実践していくためにも、この承りボックスいうのを設置しようではありませんか。そして、小学生、中学生、高校生を含めてね、いろいろアイデアを募ると。そうすると我々も含めて、執行機関の皆様方におかれましても、気がつかんことがあると思うんです。隠れたヒントが。そういうようにして多くの人からアイデアを募るということは、この邑南町政の将来未来に向けて、非常にプラスになるのではないかと。一方では町政に関心を深めていただくということや、一層の参加を促すという意味も含まれておるわけでありまして。ぜひ、これも実現するように、取り込むようにしようではありませんか。場所といたしましては、僕考えとるのはまず12の公民館に設置すると。そして、多くの人が集まる図書館、ハンザケ自然館、郷土館、あるいは健康センターなどがありますよね。そこに設置をして、多くの皆さん方からアイデアを募るというシステムにしたら、ますます邑南町が全国にしても誇れる自治体になっていくのではないだろうかと思えますから、これもぜひ実現するようにしましょう。

そして3番目の、男女共同参画についてのクォーター制の問題です。これは、例えば今僕も男女共同参画推進委員会の構成員の一人にさせていただいておりますが、かなり酸っぱく言っております。担当課長の頭を悩ませておると思うんですがこのフィンランドなんかは、この前講演会行ったんですがその方がおっしゃるように、ご存知のようにフィンランドはトップは女性なんです。フィンランド、ノルウェーなどなど。それで閣僚は4割が女性だという。国会議員も5割は女性だという。日本とは雲泥の差がありますよね。それは、例えば邑南町議会の部分もあるんですが、そこはクォーター制するかどうかというのはちょっと問題があるから、それをそこもしなさいという気持ちは持っておりませんが。有権者は半分は女性なんです。だから半分決めてもおかしくない。単純な意味でね。審議会委員会というのはある程度の考えられ、まだみやすいところですから。だから、その女性比率を上げるためにも、ぜひクォ

一ター制を実施をして、5割と申しませんが、4割3割でもいいじゃないですか。そして、我々の気がつかない女性の感性をこの中にいかしてすることが、邑南町政のさらなる充実発展に繋がっていくと僕は考えておりますから、ぜひこれも実現するように考えじゃありませんか。以上、大体総括的に申し上げさせていただきました。ご回答お願いします。

●石橋議長（石橋純二） はい。三問一括で質問をいただきました。このことに対してあります。

○大賀総務課長（大賀定） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、大賀総務課長。

○大賀総務課長（大賀定） 邑南町合併以来18年が経過しております。この間町全体の一体感の醸成を図っていくために、スポーツや文化など様々な取り組みが進められてきたとっております。その取り組みは行政主導だけではなく、住民による民間の取り組みも積極的に進められてきたとっております。現状において、一体感のある邑南町となっているのか。まだまだ一体感があるとは言えないのか。住民の皆さんからは、様々なご意見があろうかと思っております。旧町村の枠組みを超えて行事などへの参加や交流が図られている現在の状況もあり、邑南町としての一体感は一定程度醸成されてきているのではないかと考えております。

○三上生涯学習課長（三上徹） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、三上生涯学習課長。

○三上生涯学習課長（三上徹） 生涯学習課の主催及び関連団体が開催している、一同に会して交流を深め合うスポーツイベントでは、邑南町及び教育委員会主催の邑南町バレーボール大会、スポーツ推進委員協議会主催の親善ソフトバレーボール大会、体育協会の羽須美、瑞穂、石見支部がそれぞれ邑南町長杯として、グラウンドゴルフ大会、野球大会、ファミリーバドミントン大会を開催しております。行政だけでなく住民によるイベントも開催され、あらゆる世代が一体となった取り組みを実施しており、石飛議員提案の交流についてその目的は果たしていると思っております。引き続き各種団体と連携を図り、より多くの町民の方が交流していただけるよう取り組

みを進めてまいりたいと思います。以上です。

○大賀総務課長（大賀定） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、大賀総務課長。

○大賀総務課長（大賀定） 気軽にアイデアを承るボックスについての、ご提案でございますが、現在本庁正面玄関前にご提案箱、瑞穂支所内にご意見箱を設置しておりますが、利用はほとんどない状況でございます。広聴の取り組みとしましては、町民の皆さんから幅広くご意見やご要望を伺う機会を、毎年春に自治会長、行政協力員、自治会行政連絡担当職員合同会議を開催。また、秋には町政座談会を開催しております。参加者から様々なご意見やご要望を伺い、町政に反映するよう努めているところでございます。また、日頃から業務の中で町民の皆さんからご意見やご要望を伺うことも多く、私達職員は常に真摯に耳を傾けお話をしっかり聞き、丁寧な対応を心がけていくことが大切であると考えております。ボックスを設置することのご提案でございますが、先ほど申し上げました心がけが大切であると思っております。その心がけを実行することで、今後もより一層町民の皆さんに寄り添う気持ちを持ち、業務にあたっていくよう努めてまいりたいと考えております。

○河野町民課長（河野博美） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、河野町民課長。

○河野町民課長（河野博美） 石飛議員におかれましては、男女共同参画推進委員として、会議の場でもクォーター制の導入を提案していただき、活発な議論となっているところです。クォーター制とは、男女間格差を積極的に是正するために女性の比率を割り当てるということであります。女性の参画率を上げる手段としては、有効なものの一つと言われております。特に政治の分野で、日本ではまだですが各国で導入をされているところです。制度の導入には、何らかの法的根拠も必要となってまいります。邑南町の現状を少し申し上げますと、2017年3月に策定した第二次邑南町男女共同参画計画で、計画の最終年度である2027年3月に、町の審議会等への女性の参画率を30%と掲げております。現在23.4%です。クォーター制についてですが、推進委員の複数の石飛議員以外の複数の委員からは、意識調査で格差是正の機運が邑南町はいまだ低いのではないかと。そのような中数字で割り当てを強いること

が先行してしまうと、誰もが参加しやすい体制や環境づくりという本質を見失ってしまうのではないかと懸念の声もいただいているところです。いずれにしても、住みよいまちを築いていくための男女共同参画でございます。制度の導入には法的根拠の整備も必要とされていることから、引き続き情報収集を行い広く議論を重ねてまいりたいと思います。

●石飛議員（石飛正一） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、石飛議員。

●石飛議員（石飛正一） 大項目の関係、運動会の関係ですが、今生涯学習課がおっしゃるように、軟式野球やバレーだとかやっていると。それはいいですよ。だけど、これ端的に言えば一つの趣味の集合体ですよ。野球が好きなもんとかゴルフが好きなものとか、バレーとかね。それは結構なんです。僕はなぜ運動会を強調するかというのは。運動会というのはね、老若男女、各界各層、いろんな層の人が一つの会場に集まる。一つの場に集まって年に1回でもいいんですが、お互いに知り合うと。羽須美、瑞穂、石見の人が一つの場に集まって、人を知り合うということが僕は原点だろうと思うんで。そのためには、野球が好きなもんが集まるとかね、僕もその役もやっておりましたが、バレーが好きなもんが集まるという、それよりもっと広い意味で考えて、やろうじゃないかということなんです。それと一体感というのは僕も、総合振興計画の審議会がありました。何年か前に、その時に副町長が事務局長的な立場で、税務課長でしたかねことで進められたんですが、この中でかなり酸っぱくくどく言ったんですよ。それはなぜかと言えば、それぞれ生い立ちが違うんですよ。羽須美は羽須美、瑞穂は瑞穂、石見は石見で。昭和30年の昭和合併。いろいろそれを抱えてきてるでしょ。ようやく30年ぐらいして、ある程度また一体感が出たといいますか、石見は石見、瑞穂は瑞穂、羽須美で。それが今度また大型になったわけですから、年配の人年寄りをひらっておればおるほど、前のことが心の中にあるからその垣根を取るために、取り払うために一同集まって心をかよわして。そうすることが邑南郷になる。そういう場を設定しようという考え方なんです。ねえ、具体的に申しますと、石見だったら町長選なんかかなり揉めましたよ。瑞穂だってあるでしょ、出羽と田所が反旗をひるがえしたとかね。わかりやすく言うために具体的に申します。羽須美だって口羽と阿須那、役場へ持って行ったり戻ったりいうんじゃないんですか。だからそういう歴史を、わだかまりを早く氷を溶かして一つになろうって。藻谷浩介さんもおっしゃってました。わずか1万しかいない小さな町で、足を引っ張っ

たり氷水をかぶせたりするようなことはなしに、一つになりなさい。そして全国発信しなさいとおっしゃるでしょう。ですから、そのために僕らが一つになるためにはどうするかいうて、僕もかなり考えましたし、今十分じゃないですけど、これは一つの手法として、大運動会やろうと。大きな事業だからこれも書いておりますが。全町をあげてやろうということになれば、課長の皆さんが実行委員会に入って知恵を出すと。大会長は町長にお願い。実行委員長は副町長にやってもらう。大会審判長は教育長にやってもらって、みんなが結束して邑南を盛り上げていこうというのが発想なんですよ。趣旨なんですよ。だから、趣味的な部分で集まるということに矮小化するんでなしに、もっと大きな目でやりましょうよ。これは大事業ですから。全町をあげてやる気になればできると思いますよ。それを強調したい。それから時間がだんだんなくなりますからね。今日やりますという回答いただければ、僕は引き続きね何らかの場で言おうと思うんですよ。総合振興計画でやったんですから、基本目標第1項に、一体感の醸成しようというの載っけるとわけですよ。だからそれを具体的にやろうじゃありませんか。

それと2番目のこのアイデア分。現在その本庁にありますよ。あれだけじゃ届かんと思う。町政座談会もありますし、行政連絡員、自治会長会議、この前の座談会でも言いました青年部長会議やろうと。あとから、やおうやってくださいっていっぱいと言われておりましたがね。僕はやおうやとるつもりじゃありますが。だから、そのことを含めていろんなアイデアというのは、やっぱり門戸を広げるといいますか間口を広げるといいますか、そうすることによって、さっき言いましたように小学生でも中学生でも高校生でもみんなが、我々が気がつかないアイデアがあるはずですよ。これ、ヒントがあるんですよ。それを集めようと思っております。

それと時間がないから端折りますが、3番目の部分は努力するというような感じですよ。議論を深めて前向いて考えたいということでもありますから、前を向いて考えましょう。私も、もうちょっと任期があると思うんで、共同参画推進委員会の中で、また言うようになると思うんですが。思い切ってやらないと、いつまでたってもこれは道は開かんと思いますよ。現状維持では。菅元総理がおっしゃった現状維持打破。権威主義打破。封建主義打破と言ってもおっしゃりましたが、現状維持からそれを脱皮するためには、ある程度このへんを思い切って、クォーター制やろうじゃありませんか、いうふうに考えております。以上。

●石橋議長（石橋純二） 残り時間が5分となっております。答弁は簡潔にお願いしたいと思います。

○石橋町長（石橋良治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、石橋町長。

○石橋町長（石橋良治） まずお礼ですけど声かけ運動。これ昨年町政座談会で、石飛さんからやったらどうかというご提案いただいて、なるほどなと思って取り組んでいる最中でございます。まだまだ不十分かもしれませんが、しっかりやっていきたいと思います。

運動会のご提案をいただいたんでありますけども、合併して18年になりました。厳しい目で見れば、まだまだ垣根があるとは感じますが、やっぱりこれ年重ねることによって、やっぱりそこ垣根はだんだん低くなってんじゃないかなと思ってます。運動会が、本当にそれがいいのかどうかということも、よくよく考えていかなきゃいけませんし、一体感の醸成というのはやはり過去の歴史の中で相当時間がかかる、年数がかかる問題であります。ですから、今やってることを地道に積み重ねていくことがまず大事かなと思ってますので、そのへんはちょっとご理解いただきたいと思えます。

それから、広聴のあり方でアイデア箱。これはですね、今確かに効果上がってないんですけども、広報と広聴というこれ一体のものでして、まず我々本当に広報がしっかりされてるかということ、まず大前提になるんじゃないかと思えます。先般の町政座談会でも、広報のおおなんがまだまだ読まれてないという話もありますし、読みにくいという話もありますし、それ一つとってみても私どもはまだ広報については、ちょっと不十分だということで検討するように言ってますが、しっかり情報をわかりやすく提供しながらというのがまず大前提。そこができてないから、そこをやる。その上でその広聴をどうするかということについて、やっぱりアイデア箱も含めて検討していかなきゃならない話かなと思えます。

それから男女共同参画であります、いきなりクォーター制ってのは、非常にこれ難しい問題だろうと思えます。政府もまだやっておりません。そんな中で私がやっぱり今の現状見ると、邑南町に関わる各種審議会まだまだ本当に不十分です。女性の参画がゼロのところも相当あります。そこを、どうやって我々が意識的に女性の方々に参画いただくかということは、我々がまず反省点に立ってそして語りかけていくってことをやらなきゃいけない。その努力が足りないとも私も反省をしております。そこをしっかりとっていく上でまた問題点がどうあるのか。松江市なんかは、女性の登用率40%という目標を掲げておられますけども、40%にいかないなら、なぜそれはどういう原因があるんだろうかということ、やっぱり考えていかなきゃいけない

という松江の非常にいい事例だと感じてますし、なぜいけない、登用されなかった、されなきゃいけないのかっていうかなぜ登用されないのかっていう原因を、やっぱり深掘りをしていきながら、やっぱり高めていくっていうことを考えないと、目標だけがこう先走っても、まずいのかなと思ってますので、まずは我々がしっかり汗をかくということを考えていきたいなと考えてございます。

●石飛議員（石飛正一） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、石飛議員。

●石飛議員（石飛正一） 時間がありませんので、簡潔に申しますが。1項目、2項目の関係です。これ特に1項目、今町長おっしゃるように時間かかる。それは時間かかりますよ、何十年のあれが。それを解くためにはどうするかということは、もちろん時間かかりますが。僕は一つはね要はやる気を持つということだと思う。やる気をもっていろいろハードルがあるけど、それを超えていこうということが大事だと思うんですよ。それが、邑南町のこれからの10年先、20年、30年、50年先、土台といいますか、原点といいますか、なってくると思うんで、また別の機会でも申し上げるようになるかもしれませんが、是非前を向いてやろうじゃありませんか。野球やバレー、それはもちろんいいんですよ。だからそれだけの事業じゃなしに、老若男女各界各層が一同に集まる。そして人を知り合う。心をかよわせる。そのことが、邑南町の先々に繋がっていくと僕は思いますから、それはアイデアボックスと一緒になんです。今総務課長おっしゃるように、いろいろやっておりますと、努力ね。その座談会とかでもいいんですよ、もちろんやりゃあ。だけどそこに手の届かないといいますか、皆さんの意図をくみ上げるものがないという部分があるから、あえて門戸を広げて。その中には率直に言って、中傷誹謗のことがあるかもしれない。それは置いときゃいい。極端な言い方をすれば。前向きの発想がいろいろあるから、それをいかしていこうというのが趣旨ですからね。お互いに考えましょうよ。おそらくもう終わっていると思うんです。どうもありがとうございました。

●石橋議長（石橋純二） はい。以上で石飛議員の一般質問は終了いたしました。ここで暫時休憩とさせていただきます。失礼いたしました。ここで休憩といたします。再開は、3時55分とさせていただきます。

——午後 3時46分 休憩 ——

●石橋議長（石橋純二） 再開をいたします。続きまして、通告順位第5号、井上至議員、登壇をお願いします。

（井上至議員登壇）

●井上議員（井上至） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、井上至議員。

●井上議員（井上至） 本日は、日頃から私が町内を歩いて気になっているところ、疑問に思う点についてお尋ねをさせていただこうと思います。お付き合いのほど、どうぞよろしく願いいたします。今日は、4項目ほど通告させていただきました。一つ目が、声かけ運動でございます。先ほど、トビタ議員から高い評価をされておられました。石飛議員です、大変失礼いたしました。それで、私も同感するところがございまして、私8年間益田市美都町匹見で勤務をいたしまして、匹見で定年を迎えました。それから、瑞穂地区に帰りまして、瑞穂支所との関係が深かったもので、いろんな書類の手続きをさせていただきましたけど、もう職員の方々が全然変わっておられまして、窓口に行ってもどこの誰や、というような感じで対応された記憶がありますが、つい最近多分4月1日以降だと思えますけども、なにかとまた支所へことが多くなりました。そこで、大変びっくりしたのは対応の良さです。窓口に行きますと、すぐ女性職員が飛んできて対応してくれます。それから、窓口案内人という方がいらっしゃいます。これまた笑顔がとてもすてきで、私は感心をいたしました。これならやっていけるな。やはり、石橋町長が力を入れてこられたことが、実りあるものになったなと感じを受けております。さて、職員の皆様がつけておられる、声かけ運動のバッチでございます。これ本庁の入口に、手書きのポスターがありまして、思いやりと笑顔の対応に心がけています、ということを書いてありますけども、これ他人様が見たときにどう思われるでしょう。今までこういうことができてなかったからこそ、こういうことを今からしようとされてる町なのか。ちょっと疑問するところがあります。それからバッチですけども、これ声かけ運動。職員同士での声かけ運動なのか。一般住民を対象とした声かけ運動なのか。ちょっとそこらへんわかりかねるかなという気がしております。バッチの文字も正直小さいです。名札も皆さん方かけてお

られますけど、へそのほうまで垂れ下がっております。女性の方も下へ垂らしておられますんで名前を覗こうとすると、へそのほうまで顔を出して見なきゃいけないという、何やってんの、ばちときそうなほど、セクハラ的な行為になってきます。名札自体も文字が小さいですんで、そのへん改良の余地があるかどうか。あるいは現状を踏まえて、どのようにお考えなのか。それを聞いてみたいと思います。ただ、名札は多分調整ができると思いますんで胸ぐらいまで上げていただくと、若干わかりやすいかなと思いますので、町政としてどのようにお考えなのか。私も経験ありますけど、ぶらぶらしていると仕事にならないんですよ。あっちこっち引っかかったり。だからもう少し上に上げていただいて、本当に自分を見せたいのであれば、そうしていただきたいと思います。上から言われる、組合員とかで決めたことだからつけなきゃいけないとかあるかもしれませんが、もう少し住民に対応できた、やはり確かに、しぐさも大事、声も大事。お返事も大事ですけど、まず身なりからきちっとしていただいて、私はどこそかの何々ですっていうことをはっきりわかるように。私極端に言えばハチマキをされてもいいと思うんですよ。声かけ運動中ですって。だからそれぐらいの気持ちでいて欲しいなという気がしておりますが、町政のお考えとして、この私個人のご意見をどのように思われるか。ぜひ、お伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

●石橋議長（石橋純二） どうしますか町長に。まず、課長答えられますか。

○大賀総務課長（大賀定） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、大賀総務課長。

○大賀総務課長（大賀定） 声かけ運動、それからバッチや名札の着用の仕方などについてご意見をいただきました。声かけ運動につきましては、先ほどらい職員の対応がよかったとか瑞穂支所はよかったとかいうことを、おっしゃっていただきましたが、実は逆でございまして、来訪の皆様に対する職員の対応接遇について、これまで様々なご意見をいただいております。これは厳しいご意見がございました。具体的には、下を向いていて挨拶をしない、中には顔を見ても挨拶をしないという内容でございました。当たり前なことではございますが、来訪者の方より先に目を見て笑顔で職員のほうから挨拶や声かけをする。これは、窓口に限らず来訪者とすれ違う際には挨拶をする。また、迷っていらっしゃる方を見かけた際には、職員のほうから積極的に声かけをしなければならぬと考えております。職員同士の挨拶も同じでございま

す。そういう趣旨で本年1月から声かけ運動として、職員がワッペンを着用してその意識の高揚に努めているところでございます。ワッペン着用につきまして、徹底されていない面もございます。まだまだ不十分であると思っております。先ほどおっしゃっていただきましたように、字が小さいとかということもあろうかと思えます。名札の着用の位置につきましても、大変申し訳ございません、私もちょっと低くなっておりますけれど少し高い位置で見ただけのように、職員の名前と顔をできるだけ早く覚えていただいて、今後業務が進めやすくなるようにしていきたいと思っております。今後も、引き続き職員全体で思いやりと笑顔の対応、接遇を心がけてまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

●石橋議長（石橋純二） 井上議員、町長のお考えを伺いますか。よろしいですか。今の大賀課長の答弁で、よろしいですか。

●井上議員（井上至） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、井上至議員。

●井上議員（井上至） 再質問よろしいですか。ありがとうございます。これまでの成果以上に全職員が同じレベルになるように、頑張っていたきたいとエールを送りたいと思えます。よろしく願いいたします。続いて、第2項目瑞穂支所の進入路についてでございます。私、地元ですので窓口業務のほうへよく行くんですけども進入路がS字、航空写真を同封しておりますけども、教育委員会、元気館から入るほうについては、私はシンプルで入りやすいと思えます。どうして窓口関係支所側、入るのにS字なのか、非常に私入るのにストレスを感じてるんです。他の方がどうかわかりませんが、運転が下手なるかどうかもわかりませんが、それで入って瑞穂支所とケーブルテレビが重なり合っています。ですから、支所側の駐車場とケーブル側の駐車場と混同しておりますので、例えば支所入るには頭から突っ込んで、バックして出なきゃいけません。そうしたらバックにはケーブルテレビの駐車場があるんで、そこに何人かがお停めになってます。ですから、お年寄りが多い中で、ちょっと難儀さを感じておられるんじゃないかなと思って見てたんです。なぜあのS字になったのか。その経緯をお尋ねしたいと思えます。別に改良して欲しいという要望ではございませんので、どういう流れでS字になったのか。そのへんについてお答えをお願いします。

○三浦瑞穂支所長（三浦康孝） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、三浦瑞穂支所長。

○三浦瑞穂支所長（三浦康孝） 瑞穂支所の進入道路について説明いたします。瑞穂支所へのS字での進入ですが、瑞穂支所同一敷地内にはケーブルテレビと健康センター元気館が建っております。健康センター元気館は、平成17年7月に建設されました。その後、利便性や業務の効率性を図るため同一敷地内に、おおなんケーブルテレビは平成20年7月、瑞穂支所は平成22年12月にそれぞれ建設されました。健康センター元気館が建設された当時の進入路も、現在と同じ一方通行のロータリー型です。その当時、ケーブルテレビ周辺はイベント広場として、瑞穂支所周りは元気館の駐車場として整備されており、S字での進入や道路幅員等については現在と全く変わっておりません。駐車場安全に利用いただくために、あえてカーブを設置してスピードを抑制し、道路幅員や回転半径等安全基準を満たした上で、瑞穂支所への進入路は設計され整備されております。また駐車場の問題ですが、瑞穂支所及びケーブルテレビ前の駐車場は、駐車場設計基準の安全性を満たした上で、各駐車スペースや支所とケーブルテレビの間の通路です。一般的なものより大きく設計され設置されております。しかしながら、車の種類によっては駐車しづらいことも考えられますので、今後も安全に駐車いただくよう、標識等の検討も含め進入路及び駐車場の維持管理に努めてまいります。

●井上議員（井上至） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、井上議員。

●井上議員（井上至） それじゃ続きまして、第3項目広報おおなん最終ページの「1歳誕生の全員集合」でございます。よく皆さんご覧になると思いますが、私前から見てるんですけども、極端な話、サンプルとして10月号持ってきたんですけども、これ希望を募って載せられます。希望者が20人やったら画像を小さくして載せられるんですか。そういった素朴な疑問が一つあります。それと、なぜ1歳の誕生日の集合なのかっていうのがよくわからないんです。それで調べました。合併前この赤ちゃんの大集合ですけど、平成9年2月羽須美村で「すくすく満1歳」が掲載されております。次に掲載され始めたのが、平成11年9月瑞穂町で「わが家のアイドル1歳お誕生日おめでとう」。平成13年7月石見町で「1歳だよ 全員集合 はじめての誕生日」というタイトルで載せておられます。この3町村が合併をして、これを

継続された経緯もちろん編集委員会でもあったと思うんですけども。私、先日66歳の誕生日を迎えました。66歳の私も撮って欲しかったなという気もするんですが、どうして1歳なのかがよくわからないので、過去の歴史をひもといていただいております。お答えをいただければと思うんですが。なぜ1歳なのでしょう、お尋ねします。

○柳川情報みらい創造課長（柳川修司） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、柳川情報みらい創造課長。

○柳川情報みらい創造課長（柳川修司） まず「1歳だよ全員集合」について、なぜ1歳なのかと掲載する目的についてお答えいたします。先ほどご質問にもありましたように、2004年の合併以前も旧3町村で広報誌をそれぞれ発行しておりました。この中で、いずれの町村も1歳をお祝いする企画を掲載しておりました。ご質問にありましたように、羽須美村広報は「すくすく満1歳」。広報みずほは「わが家のアイドル 満1歳誕生おめでとう」。広報いわみは「1歳だよ全員集合」でした。これらの企画は、いずれの町村も少子化が進む中で、生まれてきた子供たちの初めての誕生日を祝いたい気持ちの表れであったと思われまます。合併に伴い、紙面内容の統一を図りながら、2004年10月から現在の広報誌の形となりました。新町においても、子供の初めての誕生日を祝いたい気持ちは変わらず、同趣旨の企画を掲載しているものでございます。以上が満1歳の意味と掲載する理由になっております。人数が多くなれば小さくして掲載するのかがございますが、現実に過去2年程度の掲載数を調べてまいりましたが、少ない時ではゼロ。多いときでも6人というのが実績でございます。実情から言いまして現在の枠では、8人までは同枠で収められるスペースとなっておりますので、現時点では枠をオーバーするということは想定をしております。

●井上議員（井上至） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、井上議員。

●井上議員（井上至） せっかくですんで参考までにお聞かせいただきたいんですが、毎月平均どれぐらいの誕生者がいらっしゃるのでしょうか。平均で結構です。

○柳川情報みらい創造課長（柳川修司） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、柳川情報みらい創造課長。

○柳川情報みらい創造課長（柳川修司） 年間で約60人程度と聞いておりますので、月平均でいきますと大体5人程度になるかと思えます。

●井上議員（井上至） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、井上議員。

●井上議員（井上至） はい、それじゃ最後の4項目目に入らせていただきます。農業後継者、特にUターンについてでございますが、私の中学時代までの同級生が、去年、そして今年、もうじきもう一人が地元へ帰ってまいります。お一人は奥さんを残して名古屋からなんですけども、実際に家を守るためにあるいは自分の農地田んぼなんかの稲を作って過ごしたいと希望があって、田舎へ帰ってまいりました。奥さんはそのまま都会にいらっしゃいます。ご主人は今のみまでは嫁は迎えられんと。妻を連れてくるわけにはいかんということでリフォームをされました。私も見学させていただきましたけど、四つの部屋を一つのフロアにして、とてもすてきな一角ができておりました。私の仕事柄を知ってるんだろう、私に何とか嫁や子供を連れてきたときに、家の改造費とかって見てくれるような補助金がないのかって言われたんです。今空き家対策は進んでいるかもしれませんが、そういった人口を増やすためにもそういった方がいらっしゃるといふこと。大事にしていかなきゃいけないんじゃないかと思つて、。その方から話を聞いて、ちょっと町にも聞いてましたし県の施策も調べました。どちらかというとりフォーム等については、金融機関の融資が多いという気がしております。お父さんやお母さんがお亡くなりになったりして、家を守ろうとする後継者への補助として何か制度を設けていただいで、1人や2人でも田舎へ帰って農業ができたりどっか勤めたり。もちろん定年は過ぎてますので正職員というわけにはいかないかもしれませんが、そこらへんもちょっとお尋ねをしてみたいなという気がしております。それからもう1点。これ農協にも関係あるかもしれませんが、我が家もそうですけどすてきなトラクターがあったり、農業に関するような器具備品がかなりございます。ただ、親父も高齢化してきておりましたし、結局のところ中山間地の関係でそちらのほうへお願いをして、10年間契約でやらしていただいでるんですけども、かなりバッテリーもあがったり錆てきたりということもございます。私の同級生は、自分自身としては百姓を続けていきたいんです。自分で米を作って出したいという気持ちがあったもので、農機具の修理代とか農業を続けるための支援で

きる援助制度とかっていうものを作っていたいただければ、都会の方々が定年して家に帰られたときに、百姓ができると実感を味わってもらえればいいかなという気がしております。

そこらへんところを聞かしていただければなと思います。よろしく申し上げます。

○田村地域みらい課長（田村哲） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、田村地域みらい課長。残り時間が5分少々となっておりますので、簡潔に答弁をお願いいたします。

○田村地域みらい課長（田村哲） 住宅のリフォームについての質問でございます。かつて、そういった補助金があったのは事実でございます、それが9年間実施して56件の実績があった補助金がありました。ただ、事業自体がUIターン者限定で町内の方はご利用できないので、事業の見直しに至った経緯がございます。やはり今現在使っていらっしゃる家なので、耐震性の問題であるとか、老朽化の問題であるとかが大変多くて、そのものに対するリフォーム補助金はやらずに、今やってるのは、跡地の活用のための空き家解体支援事業であるとか、冒頭の佐々木議員の時も話をしましたけれども、民間賃貸の住宅支援事業というもので、今住宅物件を確保する補助金はそういったものでやっておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○白須産業支援課長（白須寿） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、白須産業支援課長。

○白須産業支援課長（白須寿） 農業後継者の方の支援、具体的には農業用施設や農機具の機械の更新への補助事業の創設についてご意見をいただきました。農業後継者の方への支援は、国や県の制度も活用しつつ、機械施設導入支援、生活費支援、研修支援を行っているところです。このうち、農業後継者の方への機械施設導入支援については、国の経営発展支援事業、県の担い手経営発展事業、こういったものを活用しております。しかしながらこれらの制度は、専業農家を目指す方の支援となり、兼業により農業継承される場合には、該当しない場合があります。このような場合は町の単独事業で、産直市の農産物の出荷が条件になりますが、邑南町農産物直売所出荷農家支援事業を実施しておりますので、ご活用いただければと思います。また、中山間地域等直接支払制度に取り組んでおられる場合は、地域農業を維持する目的を持って

施設機械の整備をすることも可能でございますので、ご検討いただければと思います。現在のところはこういった事業を中心に、農業継続の支援を行っているところです。それぞれの事業目的に応じて一定の要件が定められております。機械施設の導入等をご検討される場合は、ぜひ産業支援課までご相談をいただければと思います。

●井上議員（井上至） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、井上議員。

●井上議員（井上至） はい、それでは通告の4問が終了いたしましたけども、最後に町長に。今日の私の4項目の総括についてお気づきの点、あるいは改善していく必要があるなということでもあれば、簡単に一つご答弁いただければと思います。

○石橋町長（石橋良治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、石橋町長。

○石橋町長（石橋良治） 時間がどれくらいありますか。

●石橋議長（石橋純二） あと5分。無い、あと2分

○石橋町長（石橋良治） 2分厳しいな。ですから、全部お答えすることにはならんかもしれないけども、声かけ運動についてバッチとそれから名札の件ですが、特にバッチはつけてるものに対する意識を変えていくということがやっぱり最大の理由だと思います。職員の意識を変える。名札見てもらうための名札なんで、井上議員おっしゃるような、やっぱり位置とかわかるようなことを工夫していかなきゃいけないと感じました。それから最後ですけども、農機具の機材。経年劣化で支障をきたす。新しい補助制度みたいなのはないかという話ですが、産業支援課長がこう言ったように、国とか県の補助事業というのはいろいろメニューがあるんですけども、それなりに制約があるわけです。専業農家の方とか、それはそれで利用してもらえばいいと思いますが、私今からこう考えるには、たくさんの農家が今までいらっやって、何かの理由でもう農業やめると。しかし考えてみれば、自分とこの農機具がまだ中古だけど使えるんじゃないかと思うんです。農機具だけじゃないと思うんですが。そうしたものを何か格安でご提供いただいて、それを本当に欲しい方に提供するっていう

は、いわゆる福祉的な市場、こうしたものを行政も考えていくほうがいいのかと思います。新しい制度っていうか町単独のその制度を考えても、それは必要な財源はあるわけですので、私が言ったように、できるだけ行政が間に立って、その仲介を取るということをやれば、隠れた農機具含めていろんなものがあるんじゃないかと思います。そうしたことを研究していくことは大事かなと思っています。

●井上議員（井上至） ありがとうございます。以上で私の一般質問を終了させていただきます。ありがとうございます。

●石橋議長（石橋純二） 以上で、井上至議員の一般質問は終了いたしました。ここで、暫時休憩とさせていただきます

——午後 4時26分 休憩 ——

——午後 4時28分 再開 ——

●石橋議長（石橋純二） 再開をいたします。続きまして、通告順位第6号、三浦幹雄議員、登壇をお願いします。

（三浦幹雄議員登壇）

●三浦議員（三浦幹雄） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、三浦幹雄議員。

●三浦議員（三浦幹雄） 初めまして、矢上の三浦幹雄と申します。私は、他人に使われること嫌いで、29歳の時インテリア幹を起業いたしまして、40年間地元の方々にかわいがっていただき、内装の仕事をしてまいりました。数年前から事業は後継者の次男に譲り、現在は今までお世話になったお礼に様々なボランティアに参加させていただきながら、矢上の地区戦、公民館活動に協力させていただいております。特に矢上公民館には、ほとんど毎日午前中おらせてもらっております。矢上公民館には、様々な方が訪ねてこられまして情報収集には困っておりません。町内の12の公民館にお邪魔し、様々な人とお話をしましてまとめたのが私の趣味で、冊子の邑南の里69歳の好奇心、邑南町これ文化財です。これの散策資料。それから邑南町自治会。

これは地域みらい課の資料を引用いたしまして編集したものですけど、5年間で数百部以上作っております。その冊子を作っているときに、考え感じました公共施設の使用料です。これちょっと疑問を生じまして、有料の施設と無料の施設が現在あるとお聞きしておりますけど、公民館活動、公民館とか施設。これは年間約14万人使っていらっしゃるみたいです。有料は野球場が2ヶ所。これが2万人使っておられるみたいです。ハンザケ自然館と郷土館。元気館も有料で使っておられるんですけど、ただし、無料と有料の差をお聞きしたいんですけど。十何万人の人が無料で使えば、かなりの経費がかかると思います。そういうのお聞きしたいんですけど、よろしくお聞きいたします。

○三上生涯学習課長（三上徹） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、三上生涯学習課長。

○三上生涯学習課長（三上徹） 三浦議員ご質問の、公共施設料金でございます。公民館等社会教育施設では、ホールや会議室の使用料、冷暖房の使用料があります。野球場グラウンド等の社会体育施設では、施設の使用料、照明の使用料をあげることができます。これらの使用料については、設置条例の条文に、公民館を使用するものは別表に掲げる使用料を許可時に納めなければならない。ただし、特別な事由がある場合はこの限りではないとあります。そのため、原則使用料を徴収することとなっております。ただし、邑南町では条文にただし書きがあるように特別な事由を設けており、社会教育関係の事業、学校教育関係の事業、町行政機関が行う事業、官公署が行う事業のために使用する場合は、会議室等の使用料について減免申請をいただいて、減額または免除しています。しかし、体育館以外の球場グラウンド等の社会体育施設では、照明使用料を徴収しております。以上です。

●三浦議員（三浦幹雄） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、三浦議員。

●三浦議員（三浦幹雄） 説明ありがとうございました。多くの方が公民館とか施設使っていらっしゃいますけど、その方にどう伝わっておるか。建物自体に町が補助していただいている施設を無料で使っておるわけですから、利用者の皆様がどれだけ理解していらっしゃるか。例えば、公民館1か月当たり電気がいくらいました。そう

いうことも玄関先に貼って掲示しまして皆さんにお伝えしたら、節電とか今町でやっておられますゼロカーボン。地味な行動ですけどゼロカーボンに繋がるんじゃないでしょうか。以上です。

○三上生涯学習課長（三上徹） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、三上生涯学習課長。

○三上生涯学習課長（三上徹） 維持管理費等の経費について、どのように表現をして皆様に大切に使うかについて、研究してまいりたいと思います。

●三浦議員（三浦幹雄） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、三浦議員。

●三浦議員（三浦幹雄） ありがとうございます。よろしくお願いたします。続きまして、文化財のことにつきまして。文化財、郷土館など教育委員会から独立して活動され、なおかつ担当者の人材、増やすべきではないかと思っております。久喜銀山が国史跡指定になったよい機会ではないでしょうか。町民の皆様に、わが町の歴史の関心を高めるために、郷土館の案内版が今ございません。できましたら田所の信号機のところに、大きなわかるような看板をつけていただければ迷いなくいけると思っています。入口も狭いですから、もう少しわかるような看板をつけて、いつお休みか、いつ開いているかを明記して、つけていただきたいと思います。そんなにお金かかることないと思いますので、早急にやっていただきたいと思います。以上です。

○三上生涯学習課長（三上徹） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、三上生涯学習課長。

○三上生涯学習課長（三上徹） 先に、看板のことについてお伝えいたします。歴史の関心を高めるための看板設置についてでございますが、案内看板が主要施設すべてに設置できていないことや、設置箇所が主要道路沿いに無い場合があります。合併以前に設置していたものに関して、設置箇所や記載内容の調査を行い、町名の変更は行っておりますが、効果のある場所や効率のよい場所への移設などの精査を行ってお

りません。まずは、町内全体の看板設置状況を調査した上で、破損の状況や未設置及び移設も含めた検討が必要と考えております。今後の看板の設置については、施設管理担当課と観光担当課が設置することが想定されます。国道及び県道は、島根県。町道等は、町の道路管理担当課とも協議を進めていく必要があると思われま。看板設置について、計画的に進めていきたいと思っております。

○大橋教育長（大橋覚） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、大橋教育長。

○大橋教育長（大橋覚） 三浦議員のご提案でございます。本当に、久喜銀山を今後進めてまいるので、大きな支援をいただいたと感じております。現在久喜銀山に関しては、保存活用につきまして、総合的な道しるべとなるような計画を策定中でございます。2年間かけて作ります。今年度と来年度。そうしますと、総合的な見地から久喜銀山含めて、邑南町の歴史文化等々どのように保存し活用してまいるかという青写真が、明確になっていくだろうと思っております。その際は、その具現化のためにはどのような人員を含めて、適切に判断をしていかなければいけないと思っております。まずもって計画を作ることを先行させていただければと思っております。以上でございます。

●三浦議員（三浦幹雄） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、三浦議員。

●三浦議員（三浦幹雄） ありがとうございます。邑南町も歴史ある鉄の町とされております。ただし、今やらなければ手遅れになることが、かなりあると思います。そういうのを含めて大事にしていてもらいたいと思っております。例えば、数年前ですけど、私地区別戦略で原山の登山やっております原山の頂上の手前に、3メートルのくぼみがありました。初めは何かわからず回ってたんですけど、ある方に聞いたら、これは戦争当時の飛行機の監視哨跡ということ。それから3名の方にお話を聞きまして、今亡くなっておられますけど井原の三千田さんに詳しく聞いて資料として集めて、これは大事なものだということでミニチュアじゃないですけど、作りたいんですけどなかなか作れません。実際話を聞きますといろいろなことがわかってきますので、それを集約してから作ったらいいんじゃないかなと思っております。何とか実現した

いと思っておりますので、その時には展示させてもらおうと思います。ご覧なってください。今のたたら課の話については、質問は終わります。ありがとうございました。続きまして、邑南町の観光の行方はどのようになっておるかいうことを聞きたいんですけど、コロナ禍だけにとどまらず今は閉めておるともかなりありますけど、なるべく早めにオープンしていただき、それといつも提案するんですけど、観光地のインフォメーション施設が邑南町は存在いたしません。これは観光客の方が来られて、例えば香木の森に来られて、香木の森どこなんですかって言うんです。今ここに立っているところですよ。そういう観光ですから、やはりインフォメーションを作りまして、観光客に手厚いサービスをしていってもらいたいと思っております。そのへんいかがでしょうか。

○白須産業支援課長（白須寿） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、白須産業支援課長。

○白須産業支援課長（白須寿） 邑南町の観光情報の発信につきましては、邑南町観光協会と連携して進めてきております。2021年からは、邑南町観光兼グルメマップ。今日実物を用意しておりますが、こういったものでございます。これを毎年更新して、町内の観光スポットや食事の提供場所など最新の情報を提供しています。この観光兼グルメマップは、以前は数年に一度更新しておりましたが、現在は毎年更新しております。より新しい情報を提供できていると考えています。マップは、役場や観光協会窓口あるいは町内の観光施設等で入手することができます。また、このマップを町民の方にも、様々な場面で利用していただこうと考えておまして、今月の12月の広報とあわせて各集落へも配布をしていきたいと考えています。加えてインターネット上での情報発信を、邑南町観光協会に委託しており、邑南町観光協会のホームページでは、関係施設や関係機関のホームページあるいはSNSへリンクを貼るなどして、観光や食事などのリアルタイムな情報を提供する体制を整えております。町内の飲食店では、SNSを活用した独自の情報発信を行っておられるところもあります。営業日のほか旬の情報を、よりタイムリーに発信することで、PRに成功しておられるところもあります。こうしたSNSを活用した情報発信の方法については、しごとづくりセンターで作成のアドバイスなども行っております。臨時休業や緊急情報を発信する上でも非常に有効だと考えますので、ぜひご相談いただければと思います。また、現在整備を進めております道の駅瑞穂は、観光案内機能も備えております。町内の観光情報発信する拠点の一つとなるものと考えております。観光客の情報の収

集方法や、求める情報の内容は年々多様化してきております。観光客の求める情報を、的確かつ効率的に提供するためにはどうしたらよいか。情報提供する媒体や方法について、官民一体となって、常に考えていく必要があると考えております。

●三浦議員（三浦幹雄） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、三浦議員。

●三浦議員（三浦幹雄） ご説明ありがとうございました。これからの観光客の見込客数。この目標を知りたいんですけど。平成28年で、89万7,000と聞いております。平成29年に、90万。平成30年86万。令和1年で70万。ちょっと少なくなってますけどコロナがきまして、令和2年に、48万9,000人。令和3年が、65万5,000人。これを令和6年に道の駅が完成しますけど、その頃の見込客数を教えてくださいませんか。

○白須産業支援課長（白須寿） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、白須産業支援課長。

○白須産業支援課長（白須寿） 観光入込客の今後の動向、予想でございますが、邑南町では、邑南町総合振興計画などで観光客数を100万人にするという目標を立てて、様々な施策を進めているところでございます。現在、この100万人という目標は達成しておりません。また、コロナ等もありまして、現在のところ先行きがはっきり見通せないというところで、はっきりした数字というのは定めておりません。ただ、今からコロナが回復しまして道の駅瑞穂などの整備も進めていますし、現在休館中の霧の湯などの再開も見込んでおりますので、そういった観光資源を最大限活用しまして、この100万人の目標を目指して観光の推進を進めていきたいと考えております。

●三浦議員（三浦幹雄） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、三浦議員。

●三浦議員（三浦幹雄） 数字はわかりました。ただし、道の駅も30億円も近く

使いますので、100万と言わず120万130万を目指してってもらいたいと思っております。これについては、一応質問を終わります。それから、今非常に人口が減っておりますけど、ついに1万人切りました。町のほうの対策はどのようにお考えなのかお聞かせください。お願いいたします。

○田村地域みらい課長（田村哲） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、田村地域みらい課長。

○田村地域みらい課長（田村哲） 人口に対する課題に対する質問でございます。邑南町の、令和4年11月末現在の住民基本台帳の人口は、9,988人となりまして、1万人を切ったところでございます。しかしながら5年ごとに公表されます、国立社会保障人口問題研究所の将来推計人口を見ますと、以前の調査結果に比べまして減少傾向が緩やかになり、減少幅が改善されているということでございます。このように将来の人口予測は、様々な要因によって変化をします。このことは平成23年度から行ってきました、日本一の子育て村構想による効果も大きいと考えています。子育て村構想の開始後は開始前と比べて、30歳から44歳のいわゆる子育て世代が増加傾向となりまして、0歳から9歳の子供の数も増加していました。このように、計画を立てて実行すれば人口動態は変化が期待できると考えています。令和2年度に、邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略2020を策定しておりまして、出生率の改善と転入増加、転出抑制の施策効果により、2060年の人口は1万人維持を目指すと掲げております。定住する上で特に重要となるのは、やはり仕事それから住まいでございます。仕事については邑南町しごとづくりセンターによりまして、事業所や起業希望者の支援を行っております。地域おこし協力隊の卒業後の起業や就農により、働く場の確保に努めている状況です。また、住まいについては、平成26年度から民間賃貸住宅建設補助事業によりまして、民間事業者が世帯用27戸単身用26戸の新築をされておりまして、跡地活用のための空き家解体支援事業では、これまでに5件の申請がされております。さらなる空き家活用に向けて、令和3年度から住宅相談センターを設置しまして、町内事業者のご協力によりまして、空き家の流動化を図るなど住まいの確保に向けた取り組みを行っているところです。一方で地域の高齢化が進んでおります。令和4年11月末現在で、高齢化率は45.2%となっております。世帯数の減少や世帯の高齢化によりまして、コミュニティ機能の維持が困難になりつつある集落があります。そうした状況を踏まえて、地域コミュニティのあり方検討委員会を設置しまして、10年後20年後も安心して暮らせる持続可能な地域づくりに向け

て、自治会等の地域コミュニティの代表者や各種団体の代表者、公民館長さんや公募委員さん交えて、議論を進めているところでございます。

●三浦議員（三浦幹雄） はい、議長。

●石橋議長（石橋純二） はい、三浦議員。

●三浦議員（三浦幹雄） いろいろありがとうございました。時間は余っておりますけど、これで一般質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

最後に、一般質問の町民12名ではありますが、このような機会を体験させていただき、誠にありがとうございました。これからも、清らかな邑南町、若者が町議会議員に挑戦するような魅力ある議会に期待と希望を持ち、終わりの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

●石橋議長（石橋純二） 以上で、三浦幹雄議員の一般質問は終了いたしました。以上で本町民議会に付議されました案件はすべて議了いたしました。

●石橋議長（石橋純二） お諮りをいたします。本町民議会に付議されました案件はすべて議了いたしましたので、以上をもって閉会することといたしたいと思います。これにご異議はございませんか。

（ 「異議なし」の声あり ）

●石橋議長（石橋純二） はい。異議なしと認めます。従って、本町民議会は本日をもって閉会することに決定をいたしました。なお、ここで町民議員の皆さんにお諮りをしたいと思います。11月4日と本日の一般質問、これを1月号の議会報に載せたいと思いますので、このことにつきましてご了解をいただきたいと思います。よろしくごさいますでしょうか。

（ 「異議なし」の声あり ）

●石橋議長（石橋純二） はい。ありがとうございます。議会報のほうへ載せていただきます。詳しくはないかもしれませんが、皆さんの意見、それから答弁を書かせていただきたいと思います。よろしくお祈りをいたします。



(閉会宣告)

●石橋議長（石橋純二） 以上をもちまして、令和4年第2回邑南町民議会を閉会といたします。お疲れ様でございました。

— 午後 4時 56分 閉会 —